

# リアホナ

表紙の記事——  
聖文研究を最大限に生かす  
8ページ

適切なメディアを選ぶ  
21ページ

あなたが交わしたバプテスマの聖約  
「フレンド」4ページ



# リアホナ



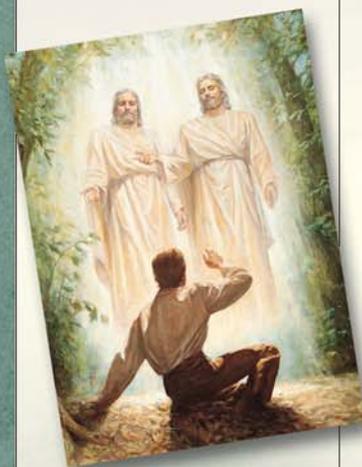
## 表紙

表紙—写真/クレグ・ダイヤモンド。  
裏表紙—写真/ウェルデン・C・  
アンダーセン, ロバート・ケーシー



## 「フレンド」表紙

写真/ジョン・ルーク。  
写真はイメージです



「肉体, 神聖な贈り物」  
16ページ参照

## 一般

- 2 大管長会メッセージ  
—主は心の打ち砕かれた者を癒される<sup>いや</sup> 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 8 聖文研究について語る—ヘンリー・B・アイリング長老へのインタビュー
- 16 肉体, 神聖な贈り物 ダイアン・L・スパングラ
- 25 家庭訪問メッセージ—伝道活動を喜びとする
- 28 教義と聖約からのメッセージ  
—なぜ人は逆境に遭うのでしょうか 地域七十人 D・アレン・アンダーセン
- 32 家族を強める—愛し, 世話をするという神聖な責任
- 34 管理監督会 管理監督会第二副監督 キース・B・マクマリン
- 42 末日聖徒の声  
神殿に行けるでしょうか マリナ・ティモフィーバ  
食べ物か底を突いていました アダム・N・アーキン  
財布がない! エクトール・カステリヤノス・トルシオス
- 48 読者からの便り

「キャンプで助けられて」  
26ページ参照

## 青少年

- 13 ポスター—良い面を見詰めて
- 14 もし耳を傾けるならば 地域七十人 リンゼー・T・ディル
- 21 アイデアリスト—選べ, メディアを選べよ
- 22 ある宣教師の願い タファズワ・タンジャンニ
- 26 キャンプで助けられて マリア・エスピノサ・アルベアル
- 37 短いメッセージ  
台風と試練 パーシバル・トミー  
恥としない ルイス・ウバルド・パディーラ・オルティス
- 38 マレーシアの若い開拓者たち  
ヘンリー・コール, ジェニール・コール
- 47 御存じでしたか?



## フレンド

- F2 預言者の声<sup>よげんしゃ こえ</sup>  
—山の上にある町<sup>やま うえ まち だいかんちょう</sup> 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 分かち合いの時間<sup>わかあひ じかん</sup>  
—わたしは, くいあらため, バプテスマをうけることができます
- F6 デビッド・O・マッケイだいかんちょうのしょうがいから—いじむっ子に立ちむかう<sup>こ た</sup>
- F8 小さなお友だちへ—こたえられたいのり<sup>ちい とも じかん しちじゅうにん</sup> 七十人 ジェラルド・N・ランド
- F10 ローガンのバプテスマ ジェーン・マクブライド・チョート
- F12 イエス様のように—2マイルの精神<sup>さま せいしん</sup> バーバラ・ホップ
- F13 ヨナのくいあらため<sup>よな</sup>
- F14 船長のむすこ<sup>せんちょう</sup> リサ・ファーネリウス



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)  
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,  
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ピクチャー・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャナ・ハトラ, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリオン・ポーター・ガント, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステル, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス, ポール・バツデンバーグ, ジュリー・ワール, キンバリー・ウェーブ

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キヤスリーン・ハワード, デニース・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙)でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:cur-llahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバツ語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マラヤーラム語, マタガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines July 2005.

Japanese. 25987 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

July 2005 no. 7 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Postage Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

# 家庭の夕べのためのアイデア



クラスや家庭において、『リアホナ』を使ってより効果的に福音を教えるために、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「聖文研究について語る」8ページ——あなた自身がレポーターになったつもりで、この記事にある質問を使って家族一人一人にインタビューしてみましょう。それからヘンリー・B・アイリング長老の答えを読みます。そして家族や個人で、聖文をさらに深く学ぶ方法について話し合ってください。

「肉体、神聖な贈り物」16ページ——肉体に対するこの世的な考え方に関して、筆者が述べている事柄について話し合ってください。また最後の3段落を声に出して読み、記事の中で論じられている真理について証してください。

「マレーシアの若い開拓者たち」38ページ——自分を開拓者のように感じたときのことを書き出すよう家族に言います。そして今日の世にあって開拓者になるとはどのようなことかについて、それぞれの考えを話してもらいます。また、記事に登場するマレーシアの青少年から何を学ぶことができるかについて話し合ってください。

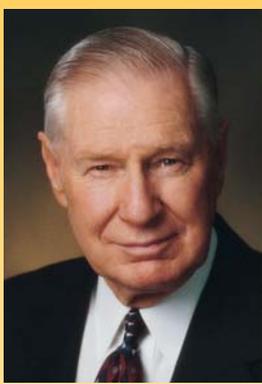
「山の上にある町」F2ページ——山の上に建っている神殿の絵を描くよう、家族に勧めてください。神殿はどのようにわたしたちを霊的に鼓舞してくれるでしょうか。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の経験を家族に紹介してください。マタイ5:14-16をともに学んで、家族の一人一人に世の模範となる方法を提案してもらいます。

「こたえられたいのり」F8ページ——家族とともにアルマ37:37を学び、あなた自身の祈りがこたえられたときの経験について分かち合ってください。そしてジェラルド・N・ランド長老の経験を祈りの気持ちで読み聞かせ、祈りに関する祝福について証しましょう。  
「ローガンのバプテスマ」F10ページ——家族に、自分自身やほかの人のバプテスマ会でどのように感じたかを分かち合うよう勧めます。この記事に書かれている、色のついた四角形の紙を使った活動を、実際にやってみるよう計画しましょう。そのとき家族のそれぞれが、現在自分がいる地点を表していると思う紙の上に立つように促します。そして、さらに前に進むためには何を必要があるかについて話し合ってください。

## 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略	
イエス・キリスト	ジョセフ・スミス・・・25, 28
・・・	初等協会・・・F4
祈り	神権・・・34
癒し	神殿と神殿活動
教えること	・・・2, 16, 42, F2
開拓者	聖餐・・・2, F4
確認	聖文の研究・・・2, 8
家族	聖霊・・・2, 8, 14
家庭の夕べ	態度・・・13
家庭訪問	伝道活動
管理監督会	・・・22, 25, 37, 42, F8
犠牲	F14
希望	バプテスマ・・・F4, F10
逆境	奉仕・・・2, 26, 28, F12
・・・	・・・22, 26, 28, 37, 42
教会歴史	・・・47
悔い改め	F4, F13
指導性	・・・47
・・・	・・・42
・・・	・・・16
・・・	若い女性・・・26

# 主は 心の打ち砕かれた者を 癒いやされる



第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

**心**の痛みや失意、苦痛、悲しみ、絶望に対する真の癒しは確かに存在すると、確信を込めて申し上げます。詩篇の作者はこう語りました。「主は心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる。」<sup>1</sup>癒しは神の奇跡であり、心の傷は万人が受けるものです。シェイクスピアはこう言いました。「他人の傷痕をあざわらうのは、傷の痛みを知らぬやつだ。」<sup>2</sup>この世の問題や悩み、失意から逃れられる人はいないようです。今日のストレスの多い社会では、親たちが用いた癒しの方法の幾つかは、もはや効力がないようです。体を動かしたり、土を耕したりして解消できるストレスは、ますます少なくなってきました。増える要求、意見の相違、強引な売り込み、耳をつんざくような騒音、複雑な人間関係、これらが心を活気づけ、人が存続するために必要な平安を奪ってしまうのです。また、時間という容赦のない要求は内なる平安を奪い去ります。競争に生き残るというプレッシャーはかなりのものです。また、わたしたちの物欲は途方もなく大きくなっているようです。それに、個人と家族を

滅ぼそうとする力はますます増大し、悲しみや心の痛みは募るばかりです。

わたしたちの社会が霊的に病む一つの理由は、倫理的に正しいかどうかを知らない人、それを気に留めない人が多いことです。あまりにも多くのことが、便宜的に、また金品の獲得を基準に正当化されています。最近では、<sup>かんいん</sup>姦淫や不正直、暴力、そのほか様々な種類の悪に対して勇気をもって立ち上がり、反対を唱えた少数の人々や機関が、結局は笑い者になるというのが現状です。多くのことが、合法的かどうかにかかわらず、基本的に間違っています。この世の悪を求めてやまない人は、「人知ではどうも測り知ることのできない神の平安」を得ることはできません。<sup>3</sup>

わたしたちはどうにかして、心に慰めを与えてくれる癒しの力を見いださなければなりません。乳香はどこにあるのでしょうか。この世の抑圧に耐えるうえでぜひとも必要な慰めはどこにあるのでしょうか。その慰めの多くは、神の御霊との交わりを密にすることにより得られます。こうして、霊的な癒しがもたらされるのです。

ウォーレン・M・ジョンソンの物語に、この霊的な癒しが例証されています。ウォーレンは、アリゾナのリーの船着き場で開拓者の船頭を務めた人です。1866年の夏、年若い

**わ**たしたちは癒いやしの賜物たまものを信じています。  
ウォーレン・ジョンソン兄弟の家族は大変な悲劇に見舞われましたが、この賜物が肉体と霊の両方の癒しを意味していることを見いだしました。  
御霊みたまは魂に平安を告げるのです。



ウォーレン・ジョンソンは一獲千金を夢見て西部にやってきました。ところが彼は重い病気を患い、仲間はウォーレンをユタ州バウンティフルで、ある家の庭の木の下に置き去りにして行ってしまいます。その家の娘がウォーレンを見つけ、庭でだれかが死んでいると家族に知らせると、その親戚な家族は見ず知らずの彼を手厚く介抱し、彼は健康を取り戻しました。やがてウォーレンはこの家族から福音を学んでバプテスマを受け、リーの船着き場の船頭になったのです。

1891年、ウォーレン・ジョンソン兄弟の家族は大変な悲劇に見舞われます。短期間に4人の子供をジフテリアで亡くしたのです。4人は同じ場所に並んで葬られました。ウォーレン兄弟は、1891年7月29日付けのウイルフォード・ウッドラフ大管長あての手紙にこう書いています。

「愛するウッドラフ兄弟、

1891年5月、ツバシティーに住んでいたある家族が、友人たちのもとで冬を過ごしていたユタ州リッチフィールドからここにやってきました。彼らはパンギッチで子供を一人埋葬しましたが、荷車や自分たちを消毒せず、また、死んだ子供の衣服を洗うために止まることさえせずにやってきました。そしてわたしたちの家に来ると一晩滞在し、幼い子供たちと接したのです。……

その病気の性質については何も知りませんでした。わたしたちには神を信じる信仰がありました。非常に困難な使命のためにここに来ていたからです。そして自分たちなりに最善を尽くして熱心に知恵の言葉を守ろうと努力し、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一や家族の祈りなどの務めを果たし、子供たちの命が助かるよう願いました。しかし4日半の後、わたしの腕の中で〔長男〕が息を引き取りました。さらに二人が病気に感染し、わたしたちは賢明だと思える範囲でできるかぎり断食をして祈りました。この地で行うべき義務がたくさんあったからです。24時間余り皆で断食をして、わたしは一度40時間断食をしましたが、無駄に終わりました。二人の幼い娘も死んでしまったのです。その死から約1週間後、15歳の娘メリンダも病気にかかり、できることをすべて行いましたが、ほかの子供たちの後を追いました。3人の愛する娘と1人の息子を取り去られたわけですが、まだ終わりではありませんでした。19歳の長女が<sup>きょう</sup> 現在病の床に伏しており、今日は彼女のために断食をして祈っています。……

わたしたちが何をしたので主はお離れになり、どうすればもう一度主の厚意を得ることができるのでしょうか。

福音の友、

ウォーレン・M・ジョンソン」<sup>4</sup>

これに続く、友人のウォーレン・フットへの手紙の中で、ジョンソン兄弟は霊的な平安を得たことを証<sup>あかし</sup>しています。

「これは人生で最もつらい試練ですが、わたしは救いに向かって歩み始めており、天の御父の助けによって、どのような苦境がやって来ようともしっかりと鉄の棒につかまっていようと決意しています。わたしは怠惰になることなく義務を遂行しており、兄弟たちの信仰と祈りを得られるように、そして生きて祝福を受けられるように願い、また信じています。わたしは権能を持つ皆さんから、任命されたからです。」<sup>5</sup>

信仰箇条第7条には、ほかの御霊の賜物<sup>たまもの</sup>とともに、癒しの賜物があることを信じる、とあります。わたしは、この賜物は肉体と霊の両方の癒しを意味していると信じています。御霊は魂に平安を告げます。この霊的な慰めは、様々な方法で示される御霊の賜物を願い求めることによって得られます。御霊の賜物は今日の教会に豊かに与えられています。それは謙遜<sup>けんそん</sup>でふさわしい証が述べられたときに与えられ、聖別された油を注いだ後の癒しの儀式からも授けられます。キリストは偉大な医者であり、「御自分の翼にある癒しによって」<sup>6</sup> 死者の中からよみがえられました。そして、癒しの仲立ちをなさるのが慰め主です。

主はこの癒しの力を得る方法をたくさん用意しておられます。主が神殿の業を地上に回復してくださったことを感謝しています。これは、生者、死者双方の救いにとって大切なものです。神殿は、この世の多くの煩い事から一時的に逃れることのできる聖所です。神殿は平安と静寂の場所です。そしてこの聖所で主は「心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる」のです。

聖文を読み、研究することにより、大きな慰めが得られます。マリオン・G・ロムニー第一副管長（1897-1988年）はこう述べています。

「家庭において、両親が自分たちで、また子供たちとともに、祈りながら定期的にモルモン書を読むならば、この偉大な書物の精神がその家とそこに住む人々の心を確かに満たすでしょう。また敬虔<sup>けいけん</sup>の念が高まり、互いへの尊敬といたわりの

心ははぐくまれ、争いの心がなくなります。両親は、さらに大きな愛と知恵をもって子供たちを諭すでしょう。子供たちはもっと従順になるでしょう。義が増し加えられ、信仰と希望と慈愛、すなわちキリストの純粋な愛がわたしたちの家庭に、また日々の生活にあふれ、平安と喜び、幸福が得られるでしょう。』<sup>7</sup>

わたしが若かったころ、知恵の言葉の健康への効用は、たばこやアルコール、お茶、コーヒーを避けることも含めて、今日ほど明確にはなっていませんでした。しかし、その霊的な効力はずっと証明されていました。知恵の言葉は、この勧告を覚えて戒めに従順に歩む人が「そのへそに健康を受け、その骨に髓を受ける」ことを約束しています。<sup>8</sup>

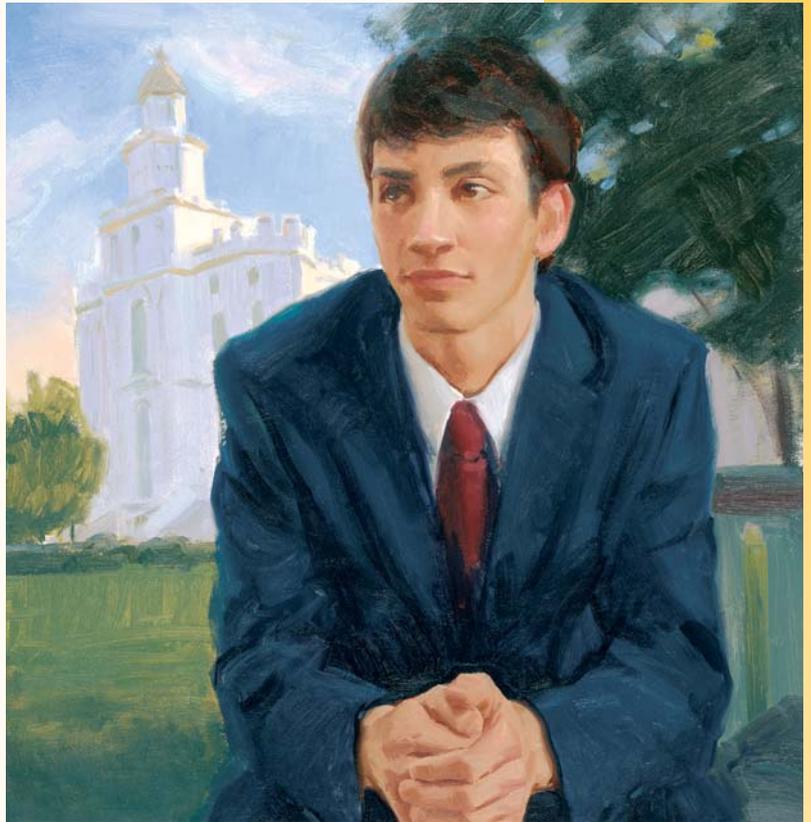
髓は昔から、健康と活力の象徴となっています。しかし、骨髄移植により生命が救われる現代では、「骨に髓」という言葉は霊にかかわる聖約として特別な意味を帯びてきます。知恵の言葉の約束は現代にも生きているのです。この律法を守る人はこう約束されています。「〔彼らは〕知恵と、知識の大なる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。

また、走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。

また、主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。』<sup>9</sup>

救われたいと思うならば、今この世にあって働くたくさんの破壊者からしっかりと身を守らなければならないのです。

しかし、多くの教会員にとって、霊的な癒しは世の中の広大なステージではなく、聖餐会せいさんかいの場で行われます。礼拝し、聖餐を受け、主を愛して主の戒めを守ろうとする隣人や親しい友人から謙遜な心で教えを受けるとき、わたしたちは慰めを受けます。善い監督は、話し手に福音のテーマや原則に添って話すよ



うに言います。話し手は常に心を開いて聖霊の力を受けて話し、聴衆がその中に宝を見いだせるようにします。メッセージは謙遜な証であり、すばらしい勧告です。わたしたち聞き手は、真理の霊によって教えられたことを理解し、述べられた証が確かなものであることを知ります。

聖餐会せいさんかいは敬虔で心が癒され、霊的な力を呼び覚ますものでなければなりません。この癒しのプロセスの一部は、音楽と歌を通してももたらされます。美しい礼拝の賛美歌を歌うことは、魂への食物となります。主への賛美を歌うとき、わたしたちは心と意思を一つにします。歌による礼拝には、とりわけ敬虔という点について、人々を霊的に一致させる力があります。

また霊的な癒しは、謙遜な心で証を述べたり聞いたりすることによっても得られます。悔い改めの心、神かみの御心みこころへの感謝、神の導きへの従順な心から述べられる証は、心の傷や悩みを取り去ってくれる強力な治療薬になります。

この教会の誠実な会員は、使徒パウロが

**神**殿は  
平安と静寂の  
場所です。  
そしてこの聖所で  
主は「心の  
打ち砕かれた者を  
いやし、その傷を  
包まれる」のです。



この教会の  
誠実な会員は、  
使徒パウロが  
「使徒たちや  
預言者たち」と  
述べている  
教会の土台となる人々と  
心をついにせず、  
完全な霊的癒しを  
得ることはできません。

「使徒たちや預言者たち」<sup>10</sup>と述べている教会の土台となる人々と心をついにせず、完全な霊的癒しを得ることはできません。預言者とそのメッセージを拒んできたこの世の長い歴史を見れば、これはあまり歓迎された話ではないかもしれません。しかし、彼らはこの世における主の代弁者であり、この時代に主の業を導き、指示を与えるために召された人々なのです。また、監督や支部長、ステーク会長や地方部長を支持することも必要です。

最近学んだことから判断すると、究極の霊的な癒しは自己を忘れることにより得られるようです。監獄や捕虜収容所で最も生き延びることができた人は、収容されているほかの人のことを心配し、その人々のために食糧などを分けていた人々であることが、研究により明らかになっています。ピクトール・フランク博士はこう述べています。「収容所にいた時期のことですが、棟を回りながら皆を元気づけ、自分の最後のパンをほかの人に上

げている人々がいました。そのような人々はほんの少数でしたが、人からすべてを取り上げても、取り上げられないものが一つだけあることを証明してくれました。それは人間の……最後の自由、いかなる状況の下でも自分の態度は自分が決め、自分の生き方は自分で選ぶという自由です。」<sup>11</sup> 救い主はそれを簡潔にこう表現しておられます。「自分の命を……失うものは、[それを]保つのである。」<sup>12</sup>

慰めを見いだせるものの中で、最も深い慰めを与えてくれるものは祈りでしょう。わたしたちは御子、主イエス・キリストの御名と、聖霊の力によって御父に祈るよう教えられています。神に祈るという行為そのものが、たとえわたしたちの望むものが神の知恵により与えられなくとも、魂を満足させるのです。ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)は、祈りはすべてこたえられるが、「否」という答えを主が下さることも時々あると言いました。<sup>13</sup> 預言者ジョセフは、「真理と知恵を得る最良の道は、……

祈りをもって神のみもとに行くことである」と言っています。<sup>14</sup> 祈りは癒しのプロセスの中で最も効果的なものです。

他人から受けた傷は特別な「癒しのすべ」によって癒されます。ジョセフ・F・スミス大管長（1838-1918年）はこう語りました。「しかし、傷を癒すすべは経験だけで得られるものではない。普遍的な善意と、人々の福利と幸福に哀れみをもって関心を寄せることから生まれる、愛にあふれた優しさがあってこそできるのである。」<sup>15</sup>

わたしたちは皆、悔い改めと従順を通して癒しを受けることができます。預言者イザヤはこう明言しました。「たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」<sup>16</sup> 預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。「霊が年を取りすぎて、神に近づけないということは、だれもが赦しの憐れみを受けられるのである。」<sup>17</sup>

完全な悔い改めができれば、後は実に簡単です。主は次の言葉でそれを説明しておられます。「わたしがあなたがたを癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。」<sup>18</sup> そうすることで、わたしたちは「主は心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる」という約束を得るのです。

わたしたちは慰め主の力を通して、キリストの内に慰めを見いだします。救い主はこう招いておられます。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」<sup>19</sup> 使徒ペテロは、「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい」<sup>20</sup> と言っています。これを行うときに、主が預言者エレミヤによって約束されたとおりに、わたしたちは癒されるのです。「わたしは彼らの悲しみを喜びにかえ、彼らを慰め、憂いの代りに喜びを与える。……わたしが疲れた魂を飽き足らせ、すべて悩んでいる魂を慰めるからである。」<sup>21</sup>

そしてわたしたちは、日の栄えの王国においてこう約束されています。「〔神が〕人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。」<sup>22</sup> そして、信仰と希望が心痛や失意、苦痛、悲しみ、絶望に取って代わり、主はモルモンが語ったようにわたしたちに力を授けてくださるのです。「キリストの喜びにのまれてしまう苦難のほか、彼らがどのような苦難も受けることがないようにされた。」<sup>23</sup> ■

## 注

1. 詩篇147：3
2. 「ロミオとジュリエット」「シェイクスピア全集」白水社、第2幕第2場、100
3. ビリビ4：7
4. P・T・ライリー “Warren Marshall Johnson, Forgotten Saint” *Utah Historical Quarterly*, 1971年冬号, 19
5. Warren Foote Autobiography, *Archives of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*(全5巻), 第2巻, 260-261
6. 2ニーファイ25：13
7. Conference Report, 1960年4月, 112-113
8. 教義と聖約89：18
9. 教義と聖約89：19-21
10. エベソ2：20
11. *Man's Search for Meaning* (1959年), 86
12. ルカ17：33
13. *The Teachings of Harold B. Lee*, クライド・J・ウィリアムズ編(1996年), 127参照
14. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 191
15. *Gospel Doctrine*, 第5版(1939年), 264
16. イザヤ1：18
17. *Teachings*, 191
18. 3ニーファイ9：13
19. マタイ11：28
20. 1ペテロ5：7
21. エレミヤ31：13, 25
22. 黙示21：4
23. アルマ31：38

## ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 石けんや水、包帯など、小さな傷を手当てするのに使用するものを見せる。または、家族にそれらのものを持って来てもらう。肉体的な癒しの過程について話し合う。ファウスト副管長によれば、今日、わたしたちはなぜ霊的な癒しを必要としているのだろうか(この記事の最初の4段落参照)。ファウスト副管長が述べている、癒しの賜物を得るための「方法」について話し合う。イエス・キリストの癒しの力について証を述べる。

2. ウォーレン・M・ジョンソンの話を声に出して読むか、自分の言葉で話す。霊的な傷と癒しについてのこの話から何を学べるだろうか。

3. 聖餐会についてのファウスト副管長の言葉を読む。聖なる御霊を感じ、癒されるうえで、聖餐会への出席はどのように役立ってきただろうか。家族に経験を紹介してもらう。

4. ファウスト副管長が、傷ついた心を癒すために聖句から神の言葉を用いていることを強調する(モルモン書ヤコブ2：8参照)。自分にとって印象深い聖句を示し、紹介する。

心の中で質問を思い浮かべながら  
聖文を読みましょう。

# 聖文研究に ついて語る

個人の霊的な成長において  
聖文研究は重要ですが、  
その点について、十二使徒定員会  
のヘンリー・B・アイリング長老から  
意見を伺いました。

**長老自身は聖文研究によってどのような利益  
を得てきましたか。**

**アイリング長老**——生涯を通じて聖文は、個人的で、助けとなる事柄を神がわたしに明らかにされる手段となっています。子供のころ、小さな聖書をもらいました。わたしの記憶が正しければ、新約聖書だけのものだったと思います。どういうわけか、わたしは慈愛について書かれているコリント人への第一の手紙第13章に心を引かれました。子供ながらも、なぜかその章がわたしにとって、将来築く家族を表す章になるということが分かりました。何年かたち、結婚する前でしたが、祝福師の祝福を受けました。祝福師は祝福の中で、わたしが将来築く家庭でどのような気持ちを味わうかを述べてくれましたが、それはわたしが何年も前にコリント人への第一の手紙第13章を読んだときに感じた気持ちとまったく同じものでした。

子供のころから、神は聖文を一つ的手段として、わたしにとって必要なこと、わたしが置かれた状況、そしてわたしの人生について語っていただきました。今でもそうです。生きていく中で必要な事柄も変わっていくので、神はその時々で異なる事柄を伝えられるのです。

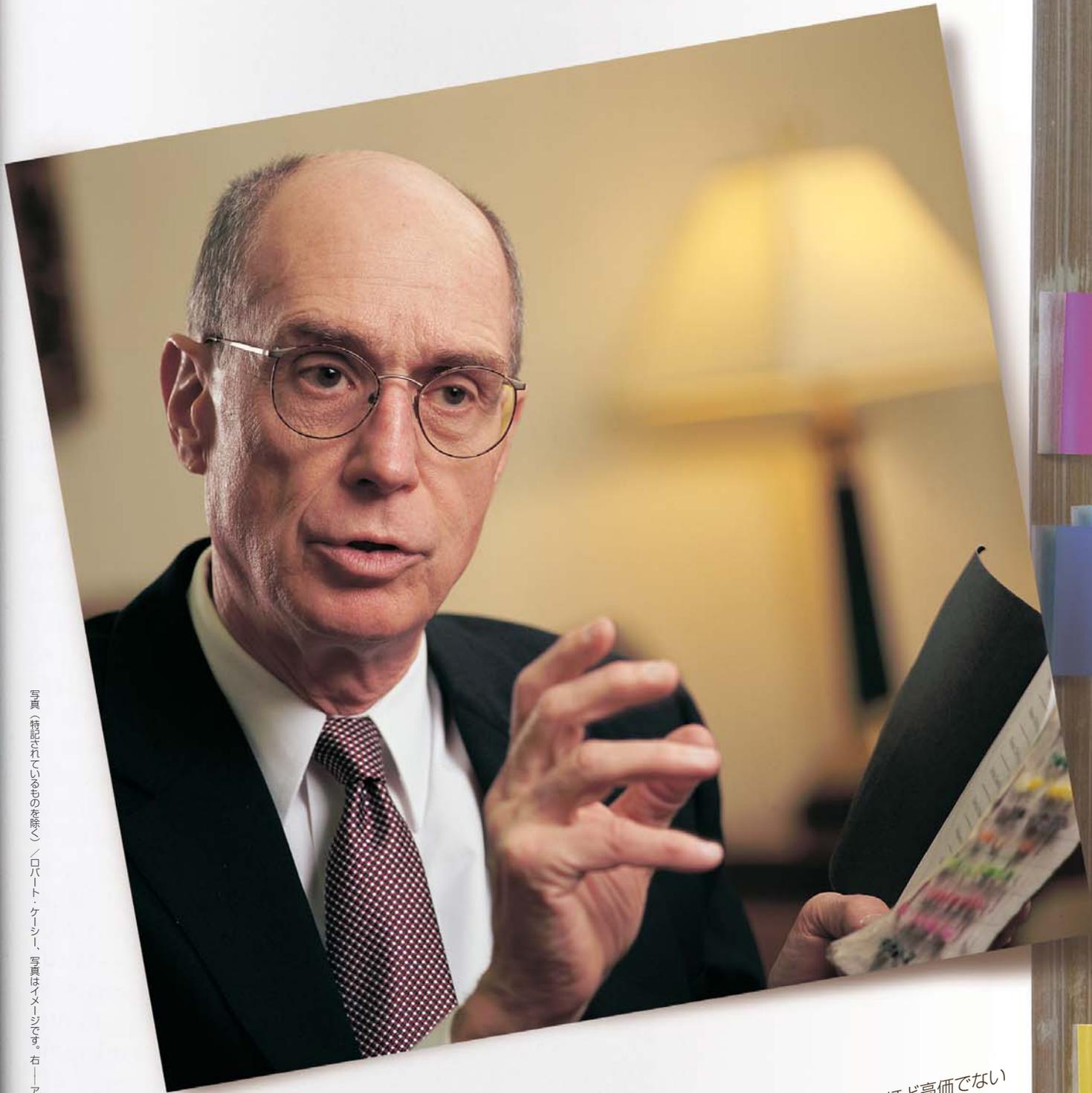
あるときは教義を知るために聖文を読みます。または、導きを得るために聖文を読むときもあります。心の中で質問を思い浮かべながら読むのですが、おおかたの場合、その質問は次のようなものです。「神はわたしに何を求めるように求めておられるのだろうか。」または「神はわたしに何を感ずるように望んでおられるのだろうか。」そうすると、今までになかった、新しい発想や考えが浮かんできて、靈感と導きと、質問に対する答えを受けます。

**モルモン書を読み続ける必要があるのはなぜ  
ですか。**

**アイリング長老**——モルモン書はイエス・キリストについてのもう一つの証であり、読めばキリストについて学ぶことができます。わたしたちは、モルモン書には偉大な力があることを知っています。人の人生を変える力があります。人を改宗させる力があります。心を開いて読むときに、モルモン書が神の言葉であり、真実のものであることが分かります。

主はまた、モルモン書を通して人との接し方や人に奉仕することも教えてくれます。モルモン書は、ほかの聖典にはない方法で家族生活に関する主の御心を明らかにしています。その秘密は、モルモン書の興味深い構造にあるとわたしは思います。モルモン書には、家族について、人間関係についてつづられているからです。家族の物語で始まり、家族の物語で終わります。そして、読む人々はモルモン書に登場する家族を愛するようになるのです。

モルモン書を定期的に読んだ方がよいもう



写真（特記されているものを除く）／ロバート・ケーシー、写真はイメージです。右—アイリング長老の写真／ウェルデン・C・アンダーセン

一つの理由は、少なくともわたしにとっての理由ですが、モルモン書を手にとってどのページを開いて読んでも、書かれている事柄が神の言葉であるという聖霊の直接の証を受けているからです。語っておられるのは主です。わたしはモルモン書が宣言どおりの書物であることを知っています。

#### 個人の聖文研究を充実したものとするためにどのような工夫をしてきましたか。

**アイリング長老**——わたしが十二使徒定員会に加わったとき、リチャード・G・スコット長老はわたしに、それほど高価でない聖典を1セット購入し、新しい召しを通して得る洞察や啓示を書き込んでみてはどうかと提案してくれま

それほど高価でない  
聖典を1セット購入し、  
気づいたことを  
書き留めましょう。

した。わたしはそれを実行しました。でもそれだけでなく、自分なりにもっと工夫してみました。

わたしは天の御父に、使徒としてわたしに何をするように望まれているかを尋ねました。そして、その質問に対する主の答えと思ったことを書き出しました。それらの答えを紙にタイプして色分けし、聖典の中表紙にはりました。例えば、最初の答えは「キリストが神の御子であられることを証するように望んでおられる」というものです。そこで次に、キリストが神の御子であられることを証するための方法を提案してくれる記述を探しながら聖文を読みました。何かを見つけたら、青色の印を付けました。そうするうちに、主がわたしに望んでおられると思われることについての独自の索引が出来上がりました。この研究方法によって多くのことを学びました。

何を行うべきかを知るために聖文に頼ることで、すべてが変わってきます。主が教えてくださるのです。例えば、子供や伴侶を失うなど人生の中で問題に遭遇したときは、具体的な助けを得るために聖文を探るべきです。聖文の中に答えを見いだすことでしょう。主はわたしたちのあらゆる問題やあらゆる必要を予期しておられたようで、わたしたちにとって助けとなる事柄を聖文に込めてくださいました。しかしそれは、求めなければ得られません。

### 末日聖徒はどうしたら聖文研究を優先させることができるでしょうか。

**アイリング長老**——忙しいスケジュールによって聖文研究を後回しにしないための唯一の方法は、聖文を学ぶための決まった時間を設定することです。わたしにとっては、一日の始めと終わりが最良の時間です。自分でコントロールできるからです。ですから、子供のころからの習慣として、一日の初めと終わりに聖文を読んできました。この習慣のおかげで、18歳になるまでにモルモン書を何度も読み通しました。



この習慣を守れない状況にいるときはつらくなります。毎日聖文研究を行うことに慣れると、しないと落ち着きません。食物と同じで、なくてはならないものです。聖文は食物と同じように必要なものなのです。食事を抜かないのと同じように、毎日の聖文研究も欠かしません。

### 聖文研究で断食と祈りはどのような役割を果たしますか。

**アイリング長老**——<sup>おきなご</sup>幼子のように<sup>けんそん</sup>謙遜で熱心に願い求める態度、すなわち教えを受けたという姿勢をもって断食に臨むべきです。これが正しい断食の方法です。ただ食事を抜くだけではいけません。

断食と同様に、聖文を研究するときも謙遜で熱心に願い求める態度で臨むべきです。教えを受けたいという気持ちで聖文を研究すると、断食を付け加えることによって非常に大きな助けが得られます。

例えば、総大会の直前、わたしは主がわたしに何を話すように望んでおられるかを知るために断食します。主が何を望んでおられるかを知らずに総大会の説教を準備することはできません。断食は、主がわたしに知ってほしいと思っておられるただ一つのことに焦点を当てるのに役立ちます。このことは、聖文を読むときも同じです。聖文研究に断食と祈りが加わると、主にとってわたしたちをお教えになることがもっと簡単になります。

10 主がわたしに望んでおられると思うことについての独自の索引が出来上がりました。

あなた自身聖文が好きであることを子供たちが知っていて、  
さらにあなたが彼らを愛していることに気づいていれば、  
家族の聖文研究は成功します。

## 両親はどうしたら子供を聖文好きにさせられるでしょうか。

**アイリング長老**——わたしたちは皆、家族の聖文研究に関しては様々な経験談や成功談があると思います。子供が10代のときは特にそうです。子供が幼いころは、子供たちを集めて一緒に聖文を読むことは比較的簡単です。しかし、子供たちが大きくなると、時折難しいことが出てきます。多くの家族は早朝の何時かに家族を起こして聖文を読み、そして夜にも読みます。しかし、家族によってパターンは様々です。

我が家の6人の子供たちもうなずいてくれると思いますが、少なくともわたし自身にとって言えることは、あなた自身聖文が好きであることを子供たちが知っていて、さらにあなたが子供たち一人一人を愛していることを子供たちが知っていれば、聖文研究は成功します。この条件が整っていれば、どんな習慣を築いても成功します。しかし、子供たちの側かあなたの側に強いられて行っているという意識があれば、あるいは子供たちがプレッシャーを感じたり、あなた自身が実際は聖文が好きでなかったりしたら、聖文研究は本来の力を発揮しません。

聖文を子供たちと一緒に読むのは子供たちを愛しているからです。それが子供たちに伝わるようにすることが大切です。しかし、10代になると一緒に聖文を読む時間が減る可能性があります。10代の子供は、「自分で読む方がいい」と言うかもしれません。このような状況の家族にお願いしたいのは、これを敗北ではなく勝利として受け止めていただきたいということです。もしかしたら子供はこう伝えようとしているのかもしれませんが。「一人で読むときには、家族で読むときには得られないことがあるんだ。」皆さんの10代の子供の胸に聖文研究がしっかりと刻み込まれているというすばらしい証拠として受け止めましょう。一人であれ、家族であれ、第一の目的は聖文を愛するようになり、聖文をよく味わうことなのです。

現実的になりましょう。10代の子供に愛していることを伝えましょう。あなた自身が聖文を愛していることを彼らにはっきりと伝えましょ

う。もし子供が自分の部屋に行って聖文を読むと言い出したら、好きにさせましょう。子供たちは自分で習慣を作り、聖文を愛するようになるからです。

わたしは聖文を心底愛している妻に恵まれています。もし妻に「何をしたい？」と聞いたとしたら、妻は「それなら、聖文を読み聞かせてちょうだい」と言うでしょう。我が家の子供たちは、わたしたち夫婦にとって聖文を読むことは義務ではなく、喜びであることを悟ったと思います。

## セミナーは若人が聖文を好きになるうえでどのような助けになるでしょうか。

**アイリング長老**——わたしは数年間、教会教育理事長として奉仕したことがありますので、セミナーには3つの強い力があることを知っています。第1に、同じ価値観を持つ若人を引き合わせます。青少年は同じ信仰を持ち、聖文を愛する仲間といることを好みます。第2に、証を持つ教師に青少年を引き合わせます。青少年はその教師が証するときに熱意を感じます。第3に、セミナーは若人を聖文に熱中させるきっかけを作ります。

セミナーの教師たちは、聖句探しや課題、聖句暗記など、いろいろな方法を試しています。成功の程度は生徒にもよりますが、セミナーが成功しているところには、証を持ち若人を愛する教師が必ずいます。

## ワードや支部の教師が承認されたカリキュラムに添って教えることはなぜ重要なのでしょうか。

**アイリング長老**——教会のカリキュラムは聖文に基づいているので、カリキュラムに添って教える教師は、生徒たちを聖文に近づけているのです。わたしが知っている最も優れた教師たちは、クラスでの話し合いの際、発言した生徒の必要や関心に合った聖句を紹介していきます。この方法には絶大な力があります。説明のために、また生徒個人を助けるために教師が聖文を活用している姿を若人が目の当たりにする瞬間、それは実にすばらしい瞬間です。

セミナーが成功しているところには、<sup>あかし</sup>証を持ち若人を愛する教師が必ずいます。

リックスカレッジ(現在のブリガム・ヤング大学  
アイダホ校)での同僚にすばらしい教授がいま  
した。わたしはよく彼にこう言いました。「そう  
いう聖句をどうやって見つけるのですか。」わ  
たしは彼のようにどんな聖句でも開けるよう  
になりたかったのです。少しの聖句ならわたし  
にもできますが、その教授はたくさんの聖句を  
覚えていたのです。教師にとって、生徒の助  
けになる聖句を自分の記憶の中から主の助け  
をお借りして引き出せることは、大きな祝福  
です。

短い聖句の方が長い聖句よりも影響力  
が大きい場合もあることを覚えておいて  
ください。その部屋に  
いるだれかの疑問や  
関心に直接答える可  
能性があります。こ  
れは強力です。模範  
によって生徒を教え  
ることができるから  
です。

生徒たちには次のように伝えます。「将来  
問題にぶつかったとき、その答えは聖文  
の中にありますよ。」

### 聖文研究における聖霊の役割はどのようなものですか。

**アイリング長老**——聖霊はわたしたちが神の  
言葉を読むときに、それが神から出ている  
ものであることを確認させていただきます。その  
確認は頻繁に繰り返され、わたしたちの信仰  
を強めます。そして、わたしたちは信仰によ  
って障害を乗り越え、誘惑を克服するのです。

わたしは執事を教えた経験があります。スカ  
ウト隊副長も務めたことがあります。少年た  
ちが少し落ち着かなくなってきたとき、ほん  
の少しの時間だけ、聖句を一つ二つ読むよう  
にしました。神の言葉を読んだときには教室  
中が穏やかな雰囲気になります。聖文の言  
語自体が聖霊を呼びます。雰囲気の違  
いを感じることができます。ですから、クラ  
スの秩序が少し

乱れてしまう問題を抱えている教師には  
次のように提案します。工夫して教師の  
あなたが聖句を読むか、あるいは生徒  
に聖句を読ませてください。この方法は  
御霊を招くことになるので、クラスを落  
ち着かせる効果があります。

### 絶えず聖文を学び続けることによってど のようなことを期待できるでしょうか。

**アイリング長老**——真に聖文を味わい  
始めると、聖文が次第に自分の一部に  
なっていくのを感じるでしょう。わたしの  
知っているだれよりも聖文に精通してい  
た十二使徒定員会のブルース・R・マッ  
コンキー長老(1915-1985年)もそう  
でした。マッコンキー長老の話をして  
いると、わたしは心の中でこう自問し  
たことが時々ありました。「これは聖文  
を引用しているのだろうか、それとも  
長老自身の言葉だろうか。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長も同  
じです。大管長の通常の会話は聖文に  
似た口調であり、心を休めている安  
らかな時間でさえも、自然にその口  
調で語ります。ヒンクレー大管長  
は、聖文に関するその知識ゆえに、  
偉大な文学的な賜物を持っている  
と思います。つい先日一緒にいたとき  
も、大管長が何げなく話に聖句を  
引き出し、その場にぴったり当て  
はまっていたということがありました。  
大管長の中に聖文が刻み込まれて  
いるのは明白です。聖文は大管長  
の一部なのです。

わたしたちは皆、いつの日か神の  
言葉を自分の一部にし、主によって  
それを引き出さずにはいられな  
いように、主のように考えるよう  
になることを待ち望むことができ  
ます。そのようになる過程で、わ  
たしたちは主に近づくことができ  
るのです。■

今回の聞き手は教会機関誌のラ  
リー・ポーター・ガートが行いま  
した。

# 良い面を見詰めて



悪い面ばかりが見えていませんか？  
人生はドラマのようにはうまくいきませんが、  
良い面を見詰めるなら、いつも幸せを見いだすことができます。  
(教義と聖約78：18参照)

# もし耳を傾けるならば



オーストラリア／ニュージーランド地域  
地域七十人  
リンゼー・T・ディル

**わ**たしはニュージーランドのノースアイランドにあるオークランドで育ちました。そしてハミルトンにあるチャーチカレッジ(訳注——教会が運営する高校)に通っていた学生時代にはたくさんのすばらしい経験ができました。わたしは当時、無敵のラグビーチームに所属していました。また、ワードの監督が高校の会計課に勤めていたので、執事定員会の会長会はそのオフィスで開かれ、わたしもその集会に出席していました。そこでわたしは立派な教師たちから神権について多くのことを学びました。神権者として評議会に出席する者の在り方や、ほかの青少年の必要としている事柄についてどのように取り組めばよいかなど、様々な模範も見ることができました。中でもわたしが学んだ最も大切なことは、御霊のささやきに従うということです。

そのころはまだセミナーはありませんでしたが、高校には宗教のクラスがありました。ある年、1年間でモルモン書を読破するという課題が出されましたが、年度末近くになっても、わたしはまだ読み終えることができませんでした。そこで、ある晩わたしは夜を徹してモルモン書を読むことにしました。モルモン書を読んでいて御霊を感じたのは、そのときが初めてでした。突然、モルモン書がただの書物ではなく、まさしく言われているとおり、神の言葉であることを悟ったのです。聖文を読むことと御霊を感じることに深いかわりがあることを知りました。また、単に御霊を感じることで、御霊をはっきりと認識して、その促しに従って行動することは違うことも学びました。この認識と行動が組み合わさると、人生にあって正しい選択をするうえで、御霊を道しるべとすることができるようになります。

その後、19歳になったわたしは、フランス領ポリネシアに宣教師として召されました。そこでは、宣教師訓練センターの恩恵にあずかることなく、フランス語とタヒチ語を話せるようにならなければなりません。そのことで、心の底から謙遜になりました。そして、新しい言語が修得できるよう自分にできることをすべて行うとき、宣教師は成長できるということを学びました。もちろん、失敗することもありましたが、御霊が助けてくれました。御霊の助けがなければわたしたち宣教師は何もできません。しかし、御霊の力を受けたとき、伝道活動が推し進められただけでなく、言葉も上達していきました。

その後、わたしがオークランド大学の法律大学院の最終学年だったとき、学位取得を目前にしてもう一つ試験が残っていました。そのころには、結婚して二児の父親となり、仕事をもち、第二副監督としての責任も果たしており、かなり忙しい毎日を過ごしていました。大学院を卒業できて心の重荷が軽くなる日を心待ちにしていました。

試験が行われる日の朝、わたしは午前9時半に法律図書館に行き、午後2時半からの試験に備えることにしました。ところが、勉強を始めて、ふと辺りを見回すと、同じクラスの学生が一人もいないのです。ちょっといつもと違う感じがしました。そのとき、わたしの耳に「試験が始まろうとしている」という御霊のささやきが聞こえてきたのです。

「そんなはずはない。試験は2時半からだ。」わたしはそう思いました。

御霊のささやきを無視して、わたしは試験勉強を続けました。幸いなことに、それから5分したころ再び御霊がささやきました。「試験はすでに始まった。」もう3度目のささやきを待つまでもありませんでした。

わたしはすべての試験の予定表が掲示されている地下1階に駆けて行きました。「会社法、試験場B-28、試験開始時刻9時30分」予定表に

試験が行われる日の朝、わたしは午前9時半に法律図書館に行き、午後2時半からの試験に備えることにしました。そのとき、わたしの耳に「試験が始まろうとしている」という御霊のささやきが聞こえてきたのです。



## さらに深く 学ぶために

聖霊についてさらに深く学ぶには、以下の聖句を読んでください。——ヨハネ14:26;ガラテヤ5:22-23;モーサヤ4:20:5:2;教義と聖約6:15-16, 22-23;9:8-9;11:12-14。



はっきりとそう記されているではありませんか。そのときちょうどエレベーターから降りて来る二人の試験官に出会ったわたしは「遅れてしまったことは承知しています。勘違いをしていたものですか。試験場に入れていただけないでしょうか」と尋ねました。3時間の予定で行われる試験に40分も遅刻したわたしを二人は入れてくれました。机に向かったわたしの心臓は激しく鼓動していました。試験問題に目を通したわたしは途方に暮れました。「だめだ、全然分からない!」

そこでわたしはひそかに祈りをささげました。「天のお父様、御霊のささやきに心から感謝しています。最初のささやきを無視したことをお赦しください。この試験を無事に乗り切ることができるよう、どうかわたしを祝福してください。」

すると心が平安で満たされるのを感じました。そして再び試験問題に目を向けると、「ああ、このことなら分かる」と思いました。こうして、わたしは、

答えを書き始めました。「はい、それまで」という試験官の声がかかるまでわたしはペンを走らせ続けました。後に試験に合格したことを知ったわたしは感謝の念に包まれました。

この経験をはじめ、ほかにも様々な経験を通して、天の御父はわたしたち一人一人をよく御存じで、正しい選択をしようと努めるならば必ず祝福してくださるということを学びました。教義と聖約第84章88節の中で主は次のように言っておられます。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」

天の御父はわたしたちに御霊を送ってください、もしわたしたちが耳を傾けるならば、わたしたちを導いてくださることを心から証<sup>あかし</sup>します。■

# 肉体，

## 神聖な贈り物

自分の肉体を、この世的な視点ではなく、  
主の視点から見詰めましょう

ダイアン・L・スパングラー

**鏡**に映った自分の姿を見て、どう感じますか。自分の容姿にうんざりすることがありますか。でも、そう感じるのはあなただけではありません。最近の統計調査によれば、アメリカに住む女性の約63パーセント、男性の約50パーセントが、容姿に不満を感じ、否定的な思いを抱いています。この統計は末日聖徒の社会にも当てはまります。<sup>1</sup>

心理学者として、わたしはこれまで、映画や雑誌に登場する人のような容姿ではないと言って自己嫌悪に陥っている末日聖徒の女性に会ってきました。才能に恵まれ、義になかった生活を送っているにもかかわらずです。そうした女性の多くは、美しくなければ価値がないと言うのです。また、カウンセリングを受けに来る人の中には、ポルノグラフィーに洗脳され、肉体を商品か消費物のように見ている人もいます。彼らの多くが最終的に心に抱く感情は、だまされた、わなにはまった、墮落してしまったというものです。肉体を尊重せず、人を敬わなくなってくると、自尊心も次第になくなっていきます。

人の価値や好ましさは容姿で決まる——それがこの世の教えです。容姿が「理想」に近ければ、人としての価値が上がり、幸福で満たされた人生をつかむチャンスが多くなるという考え方です。理想的な容姿を持っていないと、批判され

たり、無視されたりすることが多く、理想的な肉体の持ち主は、人気者となり、羨望せんぼう的となり、一目置かれるのです。

しかし、肉体についてこのような見方をすることを、神は望んでおられるでしょうか。聖文に示されている神の考え方は、この世の考え方とは懸け離れています。肉体に関する真理について、聖文や啓示は他に類を見ない教を説いています。その真理が、劣等感を助長するこの世的な考え方や習慣からわたしたちを解放してくれるのです。

### 肉体は神に似せて造られ、人の成長を促すものである

肉体を持っているということは神に似ているということ、それが肉体に関する福音の大切な真理の一つです。肉体があるのとないのとでは、ある方が神に近いのです。次の真理は事実上、末日聖徒だけが信じています。「神は触れることのできる骨肉の体を持っておられ、人の体は文字どおり神に似せて造られている。」高価な真珠には、「神は〔人〕を、御自分の体の形に、男と女に創造された」とあります（モーセ6：8-9参照）。神に似た者となるには、神のように肉体を得て、肉体について正しく理解し、正しく用いるようになる必要があります。前世で神に従わないことを選んだ人々は、死すべ

**最**初の示現を通して、預言者ジョセフ・スミスは、  
天の御父と御子イエス・キリストが骨肉の体を持って  
おられることを知りました。わたしたちの肉体は、  
文字どおり、神の御姿みすがたに似せて造られているのです。



き肉体を得る機会を失いました。預言者ジョセフ・スミスは「サタンに肉体が与えられていないのは、サタンに対する罰なのです」<sup>2</sup>と述べています。

ですから、進歩するためにも、また満ちみちる喜びを得るためにも、肉体は欠かせないのです。死すべき肉体を持っているということは、前世で義にかなった選биをしたことを証明しています。肉体には、神に似た者となるために絶えず進歩する能力が備わっています。肉体とは、首から上を好きな場所に移動させる乗り物であるとか、単に霊を悩ませるだけの欲求の塊であるなどと信じている人がいますが、それは誤りです。肉体は、人間に欠くことのできない、力強い要素なのです。聖文に「霊と体が人を成す」とあるとおりです(教義と聖約88:15)。わたしたちは、神が文字どおり肉体を持っておられることを知っています。また、肉体には常に進歩を続けるという特質があることを知っています。そのような知識に恵まれている末日聖徒は、肉体の持つすばらしい可能性を理解し、喜ぶために、たぐいまれな視点を持っているのです。

### 肉体は神聖な贈り物である

肉体について聖文が明らかにしているもう一つの真理は、肉体は神から与えられた神聖な贈り物であるということです。わたしたちは死すべき状態にいてので皆やがて死にますが、イエス・キリストの贖いのおかげで、全員が復活し、肉体と霊が永遠に結合するのです(1コリント15:22参照)。まさに、キリストの贖いの本質的な目的の一つは、死を克服することにあります。この世で言う「完璧な」肉体と、教会で言う「完全なものとされた」肉体は、まったく別のものです。つまり、教会で言う完全なものとされた肉体とは、霊と結合した体のことであり、肉体の死と霊の死を克服した体を指します。完全な体、すなわち完全なものとされた体とは、イエス・キリストを通してのみ与えられる究極の贈り物なのです。

聖文は、神聖なものを軽々しく扱ってはならない、また肉体も尊厳をもって扱わなければならないと警告しています。

アルマは次のように尋ねました。

「これらのことを退け、聖者を足の下に踏みつけることができるか。まことに、あなたがたの心を高慢にして誇ることができるか。まことに、あなたがたはこの後もなお、高価な衣服を着て、俗世のむなしなもの……に執着し続けるつもりか。

まことに、あなたがたはこの後もなお、自分はほかの者よりも優れていると思いつけるつもりか。」(アルマ5:53-54)

この聖文は、肉体をどのように扱うべきかよく考えるよう勧めています。肉体に手を加え、飾り立てることに心を奪われるなら、せっかくの神の贈り物を何のために用いているのでしょうか。肉体を大切にしなければ、神の贈り物が持つ可能性はどれほど制限されるのでしょうか。神の戒めとは正反対の方法で肉体を用いるなら、この贈り物は何の目的で用いられているのでしょうか。聖文は、厳しく問いかけています。「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。」この問いに聖文がどう答えているかを聞けば、考えさせられるでしょう。「見よ、彼は与えられるものを喜ばず、その贈り物の贈り主をも喜ばない。」(教義と聖約88:33)

肉体が与えられたのは、学び、進歩し、奉仕するためであり、贈り主である神を賛美するためです。しかし人は往々にして、自分を賛美するために肉体があるのだと思い違いをします。肉体を誇示する、蔑視する、不道徳な行いをする、肉体を軽視するなど、肉体を粗末に扱う行為はすべて、贈り物を贈り主に投げ返しているのと同じです。知恵と愛に満ちた神は、肉体に感謝し、肉体の賢い管理人となるよう勧告しておられます。

肉体に感謝し、肉体の賢い管理人となるためには、この世のものをあきらめて、天のものを得る努力が必要となります。それはモデルのようなスリムな肉体の追求をあきらめることかもしれません。行き過ぎた身繕いをやめることかもしれません。また、高価な衣服や慎みのない服装に別れを告げることかもしれません。一時の満足しか得られない食べ過ぎ



**完** 完全なものとされた体とは、  
肉体の死と霊的な死を克服した  
体であり、イエス・キリストを  
通してのみ与えられる贈り物なのです。

をやめ、適度な運動をすることもできません。また、ほかの人の肉体を、自分の欲望を満たすための道具だと見なすことをやめることもできません。以上のようなこの世の悪習慣を断つことで得られる霊性は計り知れません。肉体に関する真理を理解し、その真理に従って生きるなら、自由が得られます。虚栄心、流行、ねたみ、浅はかさ、自己批判、陰口、過食や拒食の悪影響、肉欲、ポルノグラフィ、薬物や嗜好品への依存症、入れ墨、その他の多くの世俗的な重荷と圧迫から解放されるのです。肉体の真の目的を理解するならば、選択の自由を行使し、進歩し、幸福を見いだす力を高めることができます。

### 肉体は神の宮である

聖文が教える肉体についてのもう一つの真理は、肉体は神の宮であるということです(1コリント6:19参照)。神の宮は神聖であるだけでなく、光と真理に輝いています。

エッサイの息子の中から新しい王を聖別するために、主は預言者サムエルを送られました。エッサイには8人の息子がいました。サムエルはそのうちの一人、エリアブを見て、その外見から判断して、彼こそ主が油を注がれる人であると確信しました。しかし主はサムエルにその判断が誤りであると告げ、こう教えられました。「顔かたちや身のたけを見てはならない。……わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル上16:7)

わたしたちもサムエルと同じことを学ぶ必要があります。この世的な価値基準で人の外見や身体を判断してはなりません。人の価値は外見で決まるのではないのです。神殿がなぜそれほど価値があるかと言えば、神殿を通して学び、行う事柄に価値があるからです。外観が美しい建物はたくさんあります。しかしその内部に、壮麗で偉大な神の永遠の真理と約束を見いだすことができる建物は、神殿以

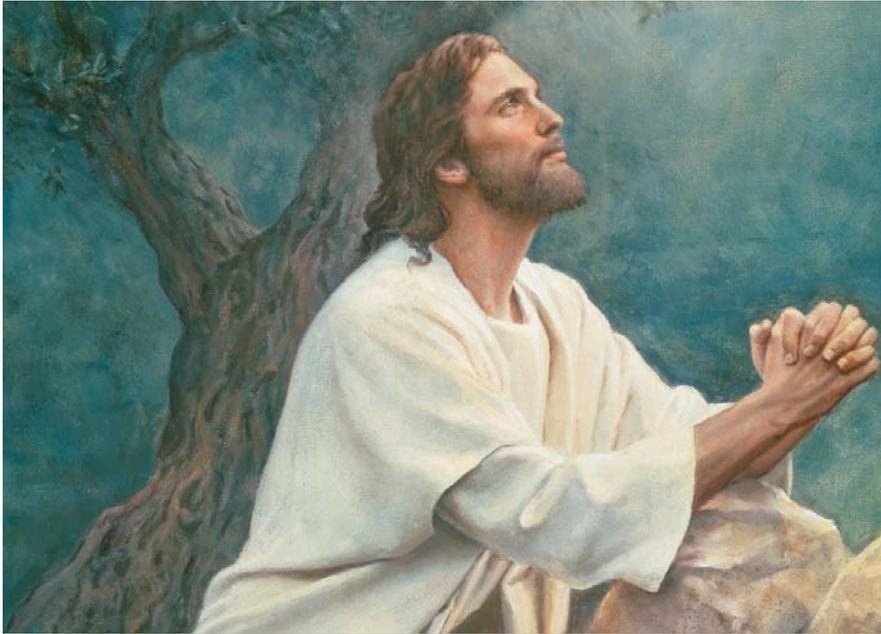


外にありません。同様に、神の目から見て、肉体の価値は偉大です。しかし肉体の真の価値は、わたしたちが肉体を通して学び、行う事柄、また、肉体の内側から何を輝かすかによって決まるのです。自分の肉体、すなわち神の宮から、キリストの光と愛と真理を輝かせなければなりません。アルマはこう尋ねました。「あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。」(アルマ5:14) キリストの面影は、真理、慈愛、希望の光を放ちます。それこそが真の美しさの源であり、全能の神の目にかなう美しさなのです。真の美しさは、その人格や生き方からにじみ出てきます。そのような神聖な美しさは、目で見ると心で感じるものであり、文化、年齢、その他の、この世の基準では測れません。

### 肉の腕に頼らず、神を信頼する

サタンは肉体を得ることができなかつたため、肉体がどれほど貴いものであるかをよく知っています。そして、人を自分と同じように惨めにするために、肉体を誤用させたり、否定

**神** 殿の外観は美しいです。しかし、神殿がなぜそれほど価値があるかと言えば、神殿を通して学び、行う事柄に価値があるからです。



**イ** エス・キリストは贖いを通して、  
肉体に関する考えや感情を  
癒していただきます。

じるならば、助けを受け、完全に癒される  
でしょう。■

ダイアン・L・スバングレーは、ユタ州シーダーヒルズ  
ステーク、シーダーヒルズ第5ワードの会員です。

注

1. アンマリー・キャロル、ダイア  
ン・L・スバングレー共著 “A Comparison of Body  
Image Satisfaction among Latter-day Saint and Non-Latter-day Saint  
College-Age Students,” *Journal of the Association of Mormon  
Counselors and Psychotherapists*, 2001年秋号, 6-18参照
2. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミ  
ス選 (1976年), 181参照

させたりしようと誘惑し、惑わせます(2ニーファイ2:27参照)。

肉体の誤用は文化にかかわらずどこにでも見られます。  
そのような悪影響の下で肉体を正しく用いるためには、思慮  
分別と努力が必要です。

自分や人の容姿が常に気になる場合、自分の容姿になか  
なか満足できない場合、その思いを変えるために何ができ  
るか、神に尋ねてください。誠心誠意尋ねるなら、聖文や聖  
霊、そのほかの方法で、必要な強さと助けが与えられるで  
しょう。天の御父は、死すべき肉体に関する苦難に直面する  
ときに、助けてくださいます。御父はわたしたちをお造り  
になると同時に、わたしたちの肉体もお造りになりました。そ  
して御自分がお造りになったすべてのものを非常に良いと  
宣言されたのです(モーセ2:31参照)。

拒食や過食といった摂食障害、過度の肥満、薬物や嗜好  
品への依存など、直面している問題が深刻な場合、カウンセ  
リングや医師の助けが必要かもしれません。しかし、肉体の  
神聖さについて理解を深め、それによって癒しを得ることが、  
肉体に関するこの世的な問題を克服する最も効果的な方法  
です。これは、身体、精神、情緒、行動の、いずれの問題にも  
言えることです。

サタンは自分や他人の肉体に不満を抱かせ、肉体を軽視さ  
せようと陰謀を企てますが、神は異なった見方を示してくださ  
います。イエス・キリストは贖いを通して、肉体に関する考え  
や感情を癒していただきます。聖文に書かれているとおりに自  
分や他人の肉体を扱うなら、肉体に対する考え方は変わるで  
しょう。この世が差し出す幻影を識別し、世俗的な見方や習  
慣から解放されるでしょう。肉体に関するこれらの原則を信

## 両親への提案

以下の提案に従えば、子供たちは肉体について健全  
な考え方を持つようになるでしょう。

- 神は、外見ではなく、人格によって人を測られると  
いうことを教える。
- この世は肉体をどうとらえているか、福音はどうと  
らえているか、その違いが理解できるよう助ける。
- 子供が人の外見を批判したときには、それは福音の  
教えに一致していないことを教える。
- 神が肉体を造られたのは、人が進歩し、神に似た者  
となるためであることを教える。肉体を通してどの  
ようなことを学び、行うことができるか考えさせる。
- 肉体を大切に、御心に添って肉体を使うことによ  
り、肉体に感謝していることを神に示すことができ  
ると教える。

**×** メディアを賢く選ぶことは、御霊がとどまるために大変重要です。ここに挙げられているのは、アイルランドのダブリンステーク、クロンダルキンワードの若人が考えた、良いメディアを選ぶためのアイデアです。図書館で本を探するときも、映画を選ぶときも、インターネットのサイトを見るときも、このアイデアを応用することができます（『若人の強さのために』[2001年、パンフレット]17-21も参照）。

- いつも御霊の導きを求めて、見るもの、聞くもの、読むものを選ぶ。御霊の促しに従う。
- インターネット上のポルノグラフィや、画面にポップアップしてくる不必要な広告を遮断するソフトウェアを入手する。
- 両親の許可を得て、家の中でいつも家族がそばを通る、だれにでも見える場所にコンピューターを置く。
- 本を買う前に、書評や表紙に書かれた内容をチェックする。明らかに不適切と思われる本は買わないようにする。
- 映画を見に行くときやビデオを借りるときは、年齢制限や批評を前もって調べておく。そうすれば、内容を知ったうえで見るべきかどうか決めることができる。
- 店頭で、ふさわしくない雑誌の表紙を見ないようにする。無意識のうちに、そのようなもの

が陳列されている場所に目が行ってしまうことのないように、ほかのことに意識を集中する。

- 音楽を聞いたり、歌ったりするとき、歌詞に注意を払う。その歌詞やメッセージ、音量、リズムが御霊を妨げるものでないかどうか考える。
- CDを買う前に、その年齢区分をチェックする。（訳注——音楽CDに年齢区分が表示されているかどうかは、国によって違います。）
- 夜遅い時間になると家族向けでない番組が多くなるので、テレビを見るときには注意する。
- 見たくないものを見てしまったり、聞きたくないものを聞いてしまったりしたときは、御霊を招くために賛美歌を口ずさみ、祈る。
- 知らずにふさわしくない番組を見てしまうことのないように、両親に頼んでそのような番組が映らないように設定してもらおう。
- 評判の高い雑誌や新聞に載っていても、ゴシップ記事は読まない。
- テレビゲームで暴力的、不道徳な内容のものや、悪い言葉を使っているものは遠ざける。買ったたり遊んだりする前に、ゲームの年齢区分を確認する。
- 悪いメディアを選んでしまったことが分かったら、すぐに消したり、使うのをやめたり、その場所から立ち去るようにする。■

# 選べ、 メディアを 選べよ

絵/ランドール・ロイター



# ある宣教師の 願い

タファズワ・タンジャニ

**わ**たしがまだ8歳の少年だったころ、幼心に、伝道に出たいという望みが芽生え始めました。14歳になって長老たちとともに伝道するようになって、ますます伝道に出たいと思うようになり、伝道を愛する気持ちも強まりました。

しかし、宣教師になりたいというわたしの望みが暗雲に覆われることになろうとは、だれが予想できたでしょう。

ジンバブウェのグウェルにあった小さな我が家を含め、大切な持ち物のほとんどを失ってしまったとき、どこにも行く当てはありませんでした。わずかな持ち物は雨にぬれ、すべて使い物にならなくなってしまいました。わたしたちは生活に行き詰まり、独りで家族を養っていた母の心労はいっそう重くなりました。

わたしたち家族は、田舎にある祖母の家に引っ越すよりほかにありませんでした。わたしはそこで地元の高校に通い、高等教育を受けました。生活は一変しました。学校ははるかに遠く、毎日何キロもの道のりを歩かなければなりません。電気もなかったため、ろうそくの光で勉強しなければならず、水は近くの小さな井戸からくまなければなりませんでした。

このような試練のただ中であって、わたしたち家族は心を一つにして祈りました。賛美歌を歌い、福音を教え合うときに、教会から隔たった地にあっても、しばしば御霊を感じました。望みはほとんどありませんでしたが、御霊を強く感じるときには、希望の光を見いだしました。

伝道に出たいというかすかな望みを持ちながらも、わたし

8歳のころから  
伝道に出る  
準備をしてきました。  
でも、  
苦しむ家族を残して、  
どうして  
伝道に出ることが  
できるでしょうか。

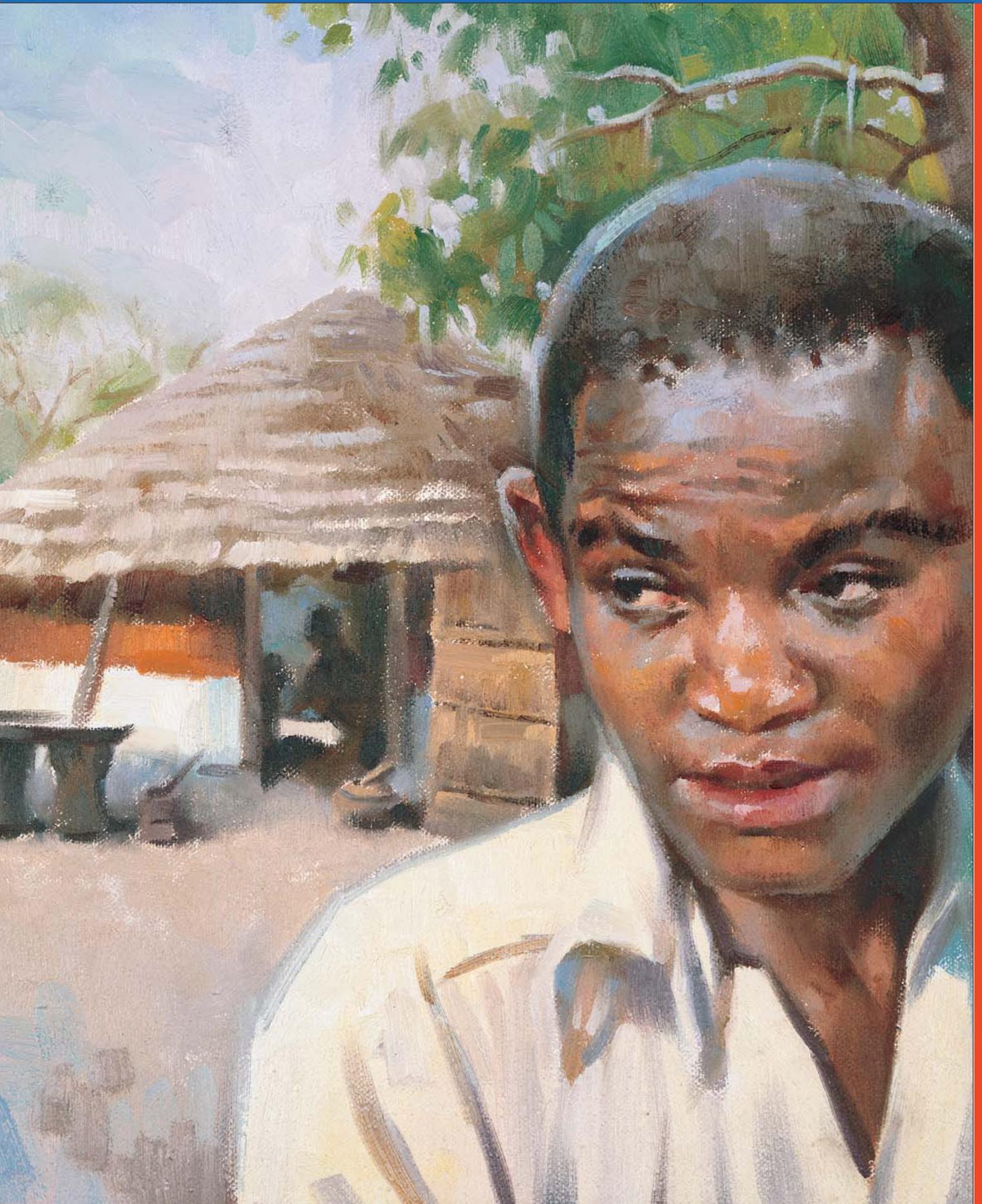
は厳しい試練を何度も乗り越えなければなりませんでした。祖国は政変や不況に見舞われました。それまでは、学校の休みの間、町に住むおばの家を訪れて、そこから教会に集っていましたが、交通費も値上がりし、それも難しくなっていました。このような数々の試練に遭う中で、わたしはそれまでずっと心に抱いていた、専任宣教師になるという望みを失ってしまいました。

田舎で2年間学校に通った後、わたしはグウェルに戻りました。再び教会に通い始め、以前感じていた御霊を取り戻しました。そのまま田舎に残った家族は、様々な問題を抱えていました。

伝道の申請書を出したのは、ちょうどそのころでした。内科や歯科で健康診断書を出してもらうために支払ったお金を、苦しむ家族のために使うこともできたはずですが、しかし家族は不平を言ったり、なぜそのようなことをするのかと尋ねたりはしませんでした。祖母も母も、わたしが幼いころから主に仕えたいと願ってきたことを知っていたからです。わたしは2003年2月に伝道の召しを受け、南アフリカのダーバン伝道部で働くことになりました。何から何まで自分一人で準備しなければならなかったため、とても大変でした。

伝道に旅立つ日が近づいて来ました。4月になり、わたしは家族に別れを告げるために田舎を訪れました。家族が寝泊まりしている小さな小屋に向かいましたが、期待していたような喜びはそこにはありませんでした。祖母は長い間病の床にあり、話すことができませんでした。わたしの目には涙があふれ、心は重く沈みました。祖母には、わたしがそこにいることさえ分からなかったのです。

翌朝わたしは、鶏が鳴く前に起きて、町に戻りました。余





命いくばくもない祖母に最後の別れを告げたとき、祖母はジンバブウェの言語の一つであるシヨナ語で、はっきりと「タファズワ、ウファンベズバカナカ」と言ってくれました。「気をつけて行って来なさい」という意味です。祖母が言えたのはこれだけでした。恐らく、伝道中に亡くなってしまうのではないかと思いました。

その晩、祖母は息を引き取りました。わたしは葬儀に出席するために田舎へ戻り、伝道への旅立ちには悲しみと心痛で満ちたものとなりました。伝道に出る宣教師を見送るときにたいいて見られるはずの笑顔は、ありませんでした。

伝道中も、家族はどんな暮らしをしているのだろうと、ふと考えずにはいられませんでした。少なくとも当面は、堪え難いような生活だったからです。

しかしわたしは、家族のために、祖国のために、そして試練に遭っているすべての人のために、信仰をもって伝道の業を続けたいと願っていました。神は必ず見守ってくださいます。

す。多くの国で苦しむすべての人々に、主が預言者ジョセフ・スミスに語られた言葉を心に留めてほしいと思います。「心に慰めを得なさい。まっすぐに歩む者たちに益となるように、また教会の聖めのために、万事がともに働くからである。」(教義と聖約100:15)

伝道中も伝道後も、生活は決して楽ではありませんでしたが、何物もわたしたちをキリストの愛から離すことはできないという事実、いつも慰められます(ローマ8:35-39参照)。

伝道に出る機会が与えられたことに感謝します。わたしは厳粛な思いで、イエスがキリストであられ、何の希望もないと思えるときにも、主を通して希望を見いだすことができると証します。■

タファズワ・タンジャンニは、ジンバブエ、グウェル地方部、ムコバ第1支部の会員です。

## 偉大な信仰のしるし



「教会の伝道活動は、1世紀以上にもわたる奉仕や困難、試練や犠牲を映し出す一大絵巻です。伝道活動に熱心に携わる人ほど、その価値をより深く理解し、味わうことができます。わたしの祖父ヒーパー・C・キンボールが伝道に旅立ったとき、彼とブリガム・ヤングは、貧しく病に苦しむ家族を後に残していかなければなりません。そのうえ、彼ら自身も二人を家から運び出す馬車に乗り込むのに助けが必要なほどでした。去り際、二人は馬車の上で立ち上がり……すすり泣く妻や子供たちに手を振り返しました。二人の伝道の結果、何千という人々が教会に入りました。そして、彼らの犠牲によって、やがて何万という人々が恩恵を受け、今まさに福音の祝福を享受しています。理解しようとしな

い人々の目には、この献身や犠牲は、無謀

で愚かな行為としか映らなかったでしょう。しかしヤング家とキンボール家にとって、それは偉大な信仰の表れでした。そしてこの二人の宣教師の名を永遠にわたってほめたたえる大勢の人々にとって、こうした苦難と犠牲は、無駄ではなかったのです。」

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年),  
*The Teachings of Spencer W. Kimball,*  
エドワード・L・キンボール編(1982年), 253



「万歳、万歳、万歳、イスラエル」ロバート・T・バレット画、複写は禁じられています

## 伝道活動を喜びとする



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証<sup>あかし</sup>を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うよう勤めてください。

**預言者ジョセフ・スミス**——「もしも全世界がこの福音を受け入れたらどうなるでしょう。人々は気持ちが良い合うようになるでしょう。そして神の祝福が世界中の人々に注がれるでしょう。それこそ、わたしが心の底から願っていることです。」(*History of the Church*, 第5巻, 259)

福音を分かち合うと、なぜ喜びを感じるのでしょうか。

**十二使徒定員会 M・ラッセル・バラー**——「イエス・キリストの回復された福音自体に、真実不変の幸福を人に与える力があります。これから先、永遠にわたって尊ばれ、大切にされるものをもたらす力があるのです。わたしたちは単に人々を教会に加入させているわけではありません。イエス・キリストの完全な回復された福音を伝えているのです。」(「会員伝道のきわめて重要な役割」『リアホナ』2003年5月号, 40参照)

**大管長 ゴードン・B・ヒンクレ**——「皆さんが教会について人に話すとき、その行為が将来どのような結果をもたらすか、決して分かりません。……ですから、試してみてください。この業について証することで得られる、心地よく、この上ない喜びを味わってください。」(*Teachings of Gordon B. Hinckley* [1997年], 373-374)

福音について話し合うために、どのような備えをしたらよいのでしょうか。

**アルマ17:11**——「……行き……なさい。……あなたがたはわたしにあって彼らに良い模範を示しなさい。そうすれば、わたしはあなたがたをわたしの手に使われる者として多くの人を救おう。」

**第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト**——「たとえどのような状況であろうと、[姉妹の]皆さんには驚くほど広く影響を及ぼす力があります。皆さんの中には、人々の人生に祝福を注ぐ自分の大きな力を過小評価しがちな人がいます。ほとんどの場合、世間の注目を浴びながら人を祝福するわけではありません。だれかと

一対一でいるときに、義の模範になることで、あるいは計り知れないほどの愛と優しさを喜んで示すことで、その人の人生に祝福を注いでいるのです。」(「天から遣わされている者」『リアホナ』2002年11月号, 111-112参照)

**十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド**

——「皆さん自身が伝道の経験をすることができるよう、日々、祈ってください。神の導きによって、次のように祈り求めてください。『わたしは伝道の機会を得たいと願っています。わたしが手にしているこの福音を切望し、探し求めている人の心が、今、備えられますように。』」(「わたしの証人」『リアホナ』2001年7月号, 16参照)

**中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン**——「抵抗がある、恐い、思いも寄らない障害が入る、不安がある、絶えずほかのことで頭がいっぱいである、誤解されているかもしれない——数え上げれば切りがありません——このようなことのために、わたしたちはあまりに頻繁に、真理を——心から愛する真理を——人に伝える機会を見送っているのです。……[しかし]今、思い出すことができます。イエスのために自分の命を失う人は皆、それを見いだすことになるのだと。」(*Bearing Record: Nothing Compares to It, Ye Shall Bare Record of Me: Talks from the 2001 BYU Women's Conference* [2002年], 21-22) ■





# キャンプで 助けられて

マリア・エスピノサ・アルベアル

楽しい時間をたくさん過ごしましたが、最後に少しだけ助けが必要でした。

**あ**る年の若い女性のキャンプを思い出します。それはほぼ完璧かんぺきでした。キャンプは「水面に浮かぶ月」と名付けられ、チリ中部にある山のふもとで行われました。特別な雰囲気に包まれ、喜びと愛の精神が周りの自然を美しく映し出していました。山々を眺め、流れ落ちる滝の音と鳥の歌声に耳を傾け、朝は太陽、夜は月と星を見上げて、わたしたちは神である創造主の存在を実感しました。

天の御父の大いなる愛にかつてないほど感謝しました。

その週ずっと、証あかしと友情を強め合い、キャンプサイトの設営方法や料理の仕方、自分の能力を信じることなど、実に多くのことを学びました。そして何より幸せでした。

ついに待ちに待った4日目、最終日を迎えました。わたしたちは日の出とともに証会を開くことにしていました。非常に早く起きなければなりませんでした、どうしても行いたいと思っ



ていました。証会の前に両親からの手紙が渡され、多くの人は読みながら涙を流し、感謝の気持ちに満たされました。

皆が証を述べていくにつれ、星が消え、太陽が山脈の上に昇りました。何と美しい朝だったことでしょう。けれども、集会が終わり、その日の活動を続けるために準備をしていたとき、空が曇り、小雨が降り始めました。

雨が降り出したため、わたしたちは集まり、天の御父に祈りました。雨がやんでキャンプを最後まで続けられるよう求めたのです。もちろん、御心<sup>みこころ</sup>のままになるようにと祈りました。雨が降り続くことが御心なら、喜んで受け入れるつもりでした。

雨足はさらに強まり、ますます冷え込んできました。わたしたちはテントの片付けと荷造りを始めました。

キャンプ指導者とわたしは滝のそばまで下りて行き、雨の中でひざまずいて、全員が無事でいられるよう御父に祈り求めました。立ち上がると、すべてがうまくいくという平安と確信を得ました。

キャンプに戻ってから数分後、キャンプ場から数キロ離れた所に住む男性が車でやって来ました。その人は、4日前にキャンプ場へ向かうわたしたちを見かけたのを思い出し、助けに来てくれたのです。町に電話して、予定の時間より早くバスに来てもらえるように手配するので、電話番号を教えてくださいと言いました。

その人は必要な情報を書き留めるとその場を去り、電話をかけてからまた戻って来て、わたしたちを自分の家に避難させてくれました。何度も往復しなければなりませんでしたが、面倒に思っている様子はありませんでした。この男性は教会員ではありませんでしたが、わたしたちにとってはまさに天使でした。

神が確かに見守り、心にかけてくださっていることが分かりました。御父はこの親切な人を通して、わたしたちの必要にこたえてくださったのです。「神は、わたしたちの嘆願を聞き、祈りにこたえてくださった。」(モーサヤ9:18)

これはわたしたちにとって、すばらしいキャンプの結末でした。■

マリア・エスピノサ・アルベアルは、チリ・チジャン・ニュブレステーク、アンタルチカ・チレーナワードの会員です。

## すばらしい 若い女性キャンプを 計画する

キャンプは若い女性が、天の御父と、御父が自分たちのために用意してくださった計画について学ぶ最高の場となります。キャンプを有意義なものとする一つの方法は、テーマを選ぶことです。テーマは、「聖句でもかまいませんし、福音の原則や若い女性の徳質、キャンプの目標をうたったスローガンでもいいでしょう。」(『若い女性キャンプ手引き』81)

以下は、キャンプ手引きにある認定証の資格条件を活用するための指針です。次に挙げる項目を若い女性が達成できるような活動を計画しましょう。

● **奉仕する。** 認定証の条件のうち少なくとも9つは、奉仕に重点が置かれています。若い女性は、「野外活動に喜びを見いだし『いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても、……神の証人』(モーサヤ18:9)としてともに確固として立とうと決意をすることができるのです。」(『キャンプ手引き』1)

● **霊的な経験をjする。** キャンプ手引きにある認定証の少なくとも19の条件は、若い女性に御霊<sup>みたま</sup>を求めるように勧めています。「あなたは自然の中で驚きを発見する[でしょう]。それは、来るべき日のためにあなたを高め、あなたに靈感を与える」のです(『キャンプ手引き』1)。

● **妻、母親、主婦、指導者となる備えをする。** 少なくとも認定証の42の条件は、若い女性が将来の役割に生かせるような技術に関連したものです。「今までできなかったことができるように」なって家に帰る若い女性を想像してみてください(『キャンプ手引き』7)。

● **自分が神の娘であることを理解する。** 少なくとも認定証の12の条件が、若い女性に労働と体を動かす活動に関する経験を与え、16の条件がリーダーシップを通して自分自身を知ることができるよう

助けてくれます。「これらの体力を要する活動は、若い女性に……自信と達成したときの喜びを与えてくれます。」(『キャンプ手引き』52参照)





# なぜ人は逆境に 遭うのでしょうか



アジア地域  
地域七十人  
D・アレン・アンダーセン

試練への  
対処の仕方によって、  
自分が  
どのような人間であり、  
また、これから  
どのような人間に  
なるかが分かります。

人生に多少の雨は付き物だと言われています。しかし、ときに土砂降りのように思えるのはなぜでしょう。愛に満ちた神はこの世をわたしたちの益のために造ってくださいました。それなのに、不愉快なことや困難なこと、苦痛や悲しみ、心痛のもととなる出来事に幾度も出くわすのはなぜなのでしょう。また人によって逆境にも大きな差があるように見えるのも、不公平に思えてなりません。

生活の中で、何が逆境の原因となるのでしょうか。罪に関する説教の中でベニヤミン王は言いました。「あなたがたが罪を犯すもとなることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。」(モーサヤ4:29) この世で経験する逆境にも同じことが言えます。逆境をすべて数え上げることはできません。自分の行動が原因となることも、周囲の人の行動が原因となることもあります。死すべき状態そのものが原因であったり、目に見えないことや、今はまだ理解できないことが原因であったりします。実際のところ、愛ある天の御父への信仰

を持ち、救いの計画や、前世と来世が確かに存在することを理解していなければ、人生で遭遇する困難をことごとく把握したりすべてに対処したりする有効な方法はないのです。

## 懲らしめを受ける

生活の中で遭遇する問題を正しくとらえるいちばん簡単な方法は、問題を二つに分類することです。つまり、自ら下した選択と行動が原因で起こる問題と、それ以外の出来事が原因で起こるものです。最初の部類に属する問題は、自分に責任があります。

聖徒が激しい迫害を受けていた時代に、主は家を追われたミズーリ州ジャクソン郡の聖徒たちに言われました。「主なるわたしは、彼らの背きのゆえに、彼らの受けている苦難が彼らに及ぶのを許した。」(教義と聖約101:2) たぶん、自らの行動の結果として直接起こる苦難や困難は、最も理解しやすいものかもしれません。しかも、そこには神聖な目的があります。「懲らしめに耐えないで、わたしを否定する者は皆、聖められることはあり得ない……」と主は説明しておられます(5節)。

主から懲らしめを受けたとき、人はある選択をします。自分の行動の結果が降りかかってきても、自分の責任であることを認めず、神に、また



葉姉妹は物質的には豊かではありませんでしたが、それまで会っただけよりも穏やかで明るい人でした。

わたしには尊敬する人物がいます。その女性はわたしに尊敬されているとは知る由もないでしょう。会ったのは1度だけですが、忘れられないほどの印象を受けました。会った後で、宣教師やステーク会長、伝道部長に彼女のことを尋ねました。すると、尊敬すべき理由がさらにあることが分かりました。この姉妹は台湾・台南ステークの葉惠華姉妹イェフイファといひます。ステーク大会のために台南を訪れていたとき

愛のこもった懲らしめに背を向けるか、あるいは、忍耐をもって従い、学び、義の中で成長するか、どちらかを選ぶのです。

「主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである」と使徒パウロは教えました(ヘブル12:6)。むちで打たれて痛くないはずはありません。

パウロは続けて言いました。

「あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。……

すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」(7, 11節)

### 神の大いなる知恵

人生にはほかの種類の逆境もあります。「こんな目に遭うなんて、一体わたしが何をしたというのだろう」と思うような逆境です。そのような試練への対処の仕方によって、自分がどのような人間であり、また、これからどのような人間になるかが分かるのです。

に会いました。葉姉妹は集会場の庭を手入れしていました。明らかに幸せそうに作業しているその姿に引き付けられました。話をすると、姉妹の口から、証あかしや多くの祝福に対する感謝の言葉が出て来ました。たった1度会って話しただけでしたが、葉姉妹の喜びに満ちた霊から発せられる輝きが忘れられませんでした。また、彼女ほどには祝福を感謝していなかった自分について思い巡らしました。彼女は物質的には豊かではありませんでしたが、それまで会っただけよりも穏やかで明るい人でした。ほかの人たちに尋ねて、葉姉妹の状況が分かりました。

若いころ、葉姉妹には大学に行きたいという強い望みがありましたが、両親にあまりにも大きな経済的負担をかけてしまうことが分かっていたので、大学に行く代わりに働いて、収入を父親に渡していました。姉妹は父親を心から愛していました。父親は善良で義を求める人でした。それから結婚し、祈りの答えとして宣教師の訪問を受け、家族そろって教会員になりました。しかし、長い闘病生活の後、夫が亡くなり、後には3人の子供とわずかな生活の糧だけが残りました。夫の死後、葉姉妹は仕事を幾つものして家族を養わなければなり

激しい迫害の間、  
ミズーリの聖徒たちは  
苦難には神聖な目的があることを  
知りました。



ませんでした。子供たちが伝道  
に出られるようにと、やり繰り  
をして毎日少しずつ貯金しました。  
3人の子供は皆伝道に出ました。

2人が台湾で、1人がユタ州ソルトレーク・シティー・テンプル  
スクウェア伝道部で奉仕しました。息子の1人は伝道から帰  
還後、病気にかかり亡くなりました。

わたしは宣教師たちに頼んで葉姉妹と話してもらいました。  
そのとき、葉姉妹はこう言ったそうです。「どうしてこのような  
試練に遭うのか、思い当たる理由はありません。でも、それは  
神の偉大な知恵によるものだ」と信じています。わたしは、天の  
御父の救いの計画に深く感謝し、理解するようになりました。  
神の戒めを守るときにだけ、神の御心<sup>みこころ</sup>が理解できると信じて  
います。わたしは毎日、ここにいることを許してくださっている  
神に感謝しています。試練に遭うとき、人の苦しみを思い出し  
ます。だれかが病気だったり、困っていたりするとき、自分に何  
ができるかお祈りをします。そうすると、主はわたしに何がで  
きるか分かるように導いてくださいます。」

宣教師は葉姉妹を、親しみを込めて「葉お母さん」と呼ん  
でいます。宣教師は、葉姉妹が集会所の庭木を刈り込んだり、  
掃除したりしている姿をよく見かけます。宣教師たちは  
言います。「葉姉妹はわたしたちの『もう一人のお母さん』な  
んです。ほんとうの子供のように思いやってくれるんです。」

## 信仰の原則

台南の集会所の庭で、葉姉妹は庭仕事の道具を手にした  
まま、受けてきた祝福に対する感謝を伝えてくれました。葉  
姉妹の輝くような笑顔を、わたしはいつまでも忘れないで  
しょう。教育の機会を失い、物質的な豊かさも得られず、身  
近な人たちに先立たれ、子供やほかの人のために何度も犠



リバティーの監獄で  
助けを求めた  
預言者ジョセフ・スミスは、  
主が  
逆境と悲しみにある人を  
助けてくださることを  
知りました。

牲を払ってきました。それが葉姉妹です。この世の試練に遭  
遇したときに「神をのろって死〔ぬ〕」(ヨブ2:9)人々と葉姉妹  
はどこが違うのでしょうか。どのような信仰の原則がその違い  
を生んでいるのでしょうか。

大切なのは、愛に満ちた天の御父と思いやりあふれる救  
い主がわたしたち一人一人の状況を御存じであると確信す  
ることです。御二方は人より深い知恵と、人より壮大なビ  
ジョンをお持ちです。すべての試練は、正しく対処するなら  
ば、人にとって永遠の益となります。そうでなければ、御二方  
は人の苦しみを放ってはおかれたいのです。わたしは、リバ  
ティーの監獄でジョセフ・スミスが受けた勧告から、大きな慰  
めを得ています。主は数々の恐ろしい試練を挙げた後、慰  
めと勧告の言葉をお授けになりました。

「息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これ  
らのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となる  
であろう。

人の子はこれらすべての下に身を落とした。あなたは人  
の子よりも大いなる者であろうか。

それゆえ、あなたの道に踏みとどまりなさい。そうすれば、  
神権はあなたとともにある。彼らの限界は定められており、彼  
らはそれを越えることはできない。あなたの命数は知られて  
おり、あなたの寿命が短くされることはない。それゆえ、人の  
なし得ることを恐れてはならない。とこしえにいつまでも、神  
はあなたとともにいるからである。」(教義と聖約122:7-9)

非常に短い節ではありますが、何とすばらしい勧告でしょ  
うか！ 主はわたしたちの試練を御存じなのです。主はもっ  
と過酷な試練を受けられました。だからこそ、逆境と悲しみ  
の中にいる人を理解し、助けることがおできになるのです。  
苦難は人の益となり、しかも、主が定められた限界を超える  
ことはありません。





家族を強める

## 愛し、世話をするという神聖な責任

このシリーズは、「家族——世界への宣言」の  
個人的な学習と活用へのヒントを与えるものです。

「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。……両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。」<sup>1</sup>

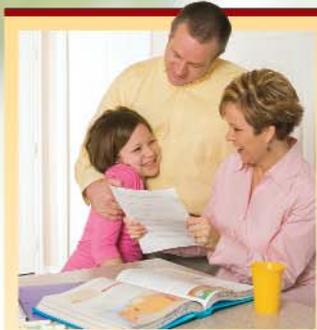
### 愛と一致

「幸福な結婚には、ロマンスよりも伴侶はんりよの安らぎと幸せを心から願うことの方が大事であると、わたしは確信しています。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように述べています。「それには弱点や過ちを快く許すことも含まれます。」<sup>2</sup>



「幸福な結婚ひけつの秘訣は、神に仕え、また夫婦が互いに仕え合うことにあります」とエズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は教えています。「結婚の目標は、個人の成長だけでなく、一致、すなわち夫婦が一つになることにもあるのです。矛盾しているように感じるかもしれませんが、お互いに仕えれば仕えるほど、互いの霊性が高まり、情緒的にも成長することができるのです。」<sup>3</sup>

結婚生活における一致は自動的にあるいはたやすく得られるものではありません。ロマンチックな恋愛は、成熟し、結婚生活において霊的な調和を求めて維持していこうという決意にまで発展しなくてはなりません。「結婚生活で一致を得るためには、とてつもない忍耐と粘り



強さ、そしてこの世において何を優先するかという明確なビジョンが求められます。』<sup>4</sup> 結婚カウンセラーのビクター・B・クラインはそう説明しています。夫婦の愛はすばらしい賜物ですが、十分に享受するには、十分に与えることを学んでいく必要があります。

### その他のもの

1831年、主はこのように宣言しておられます。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。」(教義と聖約42:22) スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はこの戒めについてこのように教えています。「『その他のものと結び合ってはならない』という言葉は、他のあらゆる人、他のあらゆるものを排除することを意味します。配偶者は生活で最も優先するものであって、社交、職業、政治、その他の利害、人、物が配偶者に優先するようなことがあってはならないのです。』<sup>5</sup> 子供、友人、仕事、趣味、あるいは教会の召しを夫婦関係より優先する夫または妻は、この「その他のもの」に関する戒めを真っ向から破っているのです。

サタンは夫婦間に不和を起こそうと躍起になっています。もしもサタンが夫婦のどちらか一方に、現在と永遠にわたって中核となるこの結婚関係に勝るものがあると信じ込ませることができたなら、サタンは家族と神の計画に挑む戦いに勝利したことになります。ですからわたしたちは特別な注意を払って夫婦関係を築き、はぐくみ、深めていかななくてはなりません。

### 両立

献身的な配偶者であることと、愛に満ちた忠実な親であることを両立させるには、細心の注意が必要です。両親には「〔自分の〕子供たちを光と真理の中で育てる」という神聖な義務があります(教義と聖約93:40)。しかし、この責任を果たすためには多大な時間が必要とされ、精神的にも多くを求められるので、気をつけていないと、子育てが夫婦関係より優先されたり、さらには夫婦関係を妨げたりする場合すらあります。夫婦が家族内での優先順位をバランスよく保つ助けとなるように、デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)をはじめ、教会指導者は、ノートルダム大学学長セオドア・ヘスバツハの賢明な勧告を引用しています。「父親がその子供たちのためにできる最も大切なことは、子供たちの母親を愛することです。』<sup>6</sup> 愛し合う夫婦のもとに育つ子供は安心感に満ちています。一方、ほかに

**子供の間違いを指摘するよりも褒めることに重点を置くようにしてください。どんな小さなことでも褒めてください。**

関心事があるために、この最も大切な関係がわきに追いやられている場合、その安心感はなかなか得られないのです。ベンソン大管長はこのように述べています。「互いに愛し合っている夫婦であれば、愛と誠実さとは、与えれば与えるほど自分に戻ってくることに気づくはずで。そして、この愛が、子供の情緒をはぐくんでいくのです。』<sup>7</sup>

### 子供は愛され、褒められることが必要です

ベンソン大管長はこのように教えています。「若人は愛と思いやりを求めています。甘やかされたいのではありません。共感と理解を求めているのであって、両親の無関心を求めているのではありません。両親が時間を割いてくれることを求めています。10代の息子、娘に対する母親の思いやりのある教えと愛と信頼が、子供を文字どおり世の悪から救うことになるのです。』<sup>8</sup> またこのように勧告しています。「子供の間違いを指摘するよりも褒めることに重点を置くようにしてください。どんな小さなことでも褒めてください。……普段から子供の話に耳を傾けて、悩み事や質問があるときには、……皆さんのところに相談に来るように……働きかけてください。』<sup>9</sup>

ヒンクレイ大管長はこのように述べています。「わたしの願いは、……子供を救うことです。あまりにも多くの子供たちが苦痛と恐れ、孤独、失意の中を歩んでいます。子供には日の光が必要です。……思いやりと励まし、愛情が必要です。家の大小を問わず、すべての家庭が愛という環境を与えることができます。それが救いにつながる環境なのです。』<sup>10</sup> ■

### 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 325
3. 「救い——家族で取り組む事業」『聖徒の道』1992年11月号, 4
4. “Healing Wounds in Marriage” *Ensign*, 1993年7月号, 16
5. *The Teachings of Spencer W. Kimball* エドワード・L・キンボール編(1982年), 311
6. “Quotable Quotes” *Reader’s Digest*, 1963年1月号, 25; ゴードン・B・ヒンクレイ「愛と親切の手を差し伸べよう」『聖徒の道』1983年1月号, 139も参照
7. 「救い——家族で取り組む事業」『聖徒の道』1992年11月号, 4
8. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 497
9. 「栄えある女性の務め」『聖徒の道』1982年4月号, 182
10. 「子供たちに救いを」『聖徒の道』1995年1月号, 62-63

# 管 理 監 督 会



## 神権定員会とその目的に関する シリーズの第6回

管理監督会第二副監督  
キース・B・マクマリン

少 前に、あるステーク大会を管理しました。そこは半年前に組織されたばかりの新しいステークで、地方部からステークになって初めて迎える大会でした。新しいステーク会長と面接をし、最後に「何か質問したいことはありませんか」と尋ねました。彼の最初の質問はこうでした。「管理監督会とはどういうものですか。」そしてこう言ったのです。「長老がこの

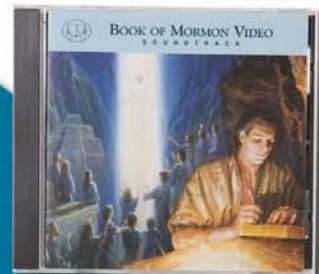
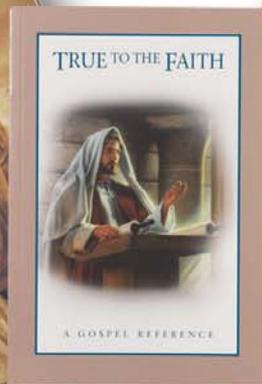
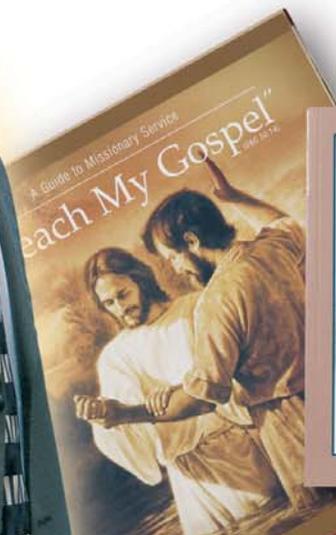
大会を管理してくださるという手紙を受け取るまで、管理監督会というものがあることすら知りませんでした。」これは決して珍しい質問ではありません。

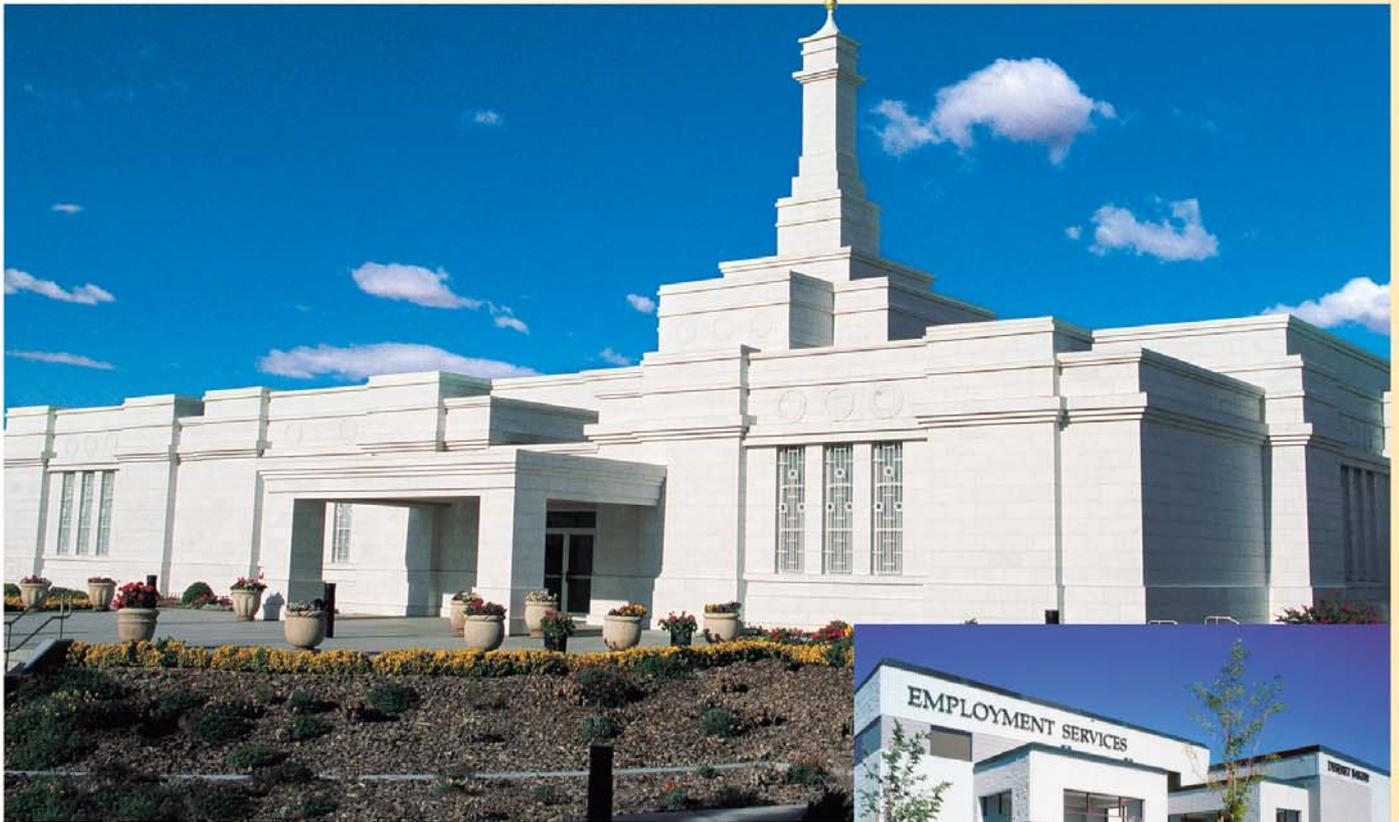
わたしはこのステーク会長に説明を始めました。管理監督会とは何か、わたしたちはだれに報告をするのか、責任は何か、といったことです。そして、大管長会の指示の下、管理監督会は教会のアロン神権の会長会として仕えることも説明しました(教義と聖約107:15参照)。また、管理監督会は教会の実務面を管理することも伝えました(教義と聖約107:68参照)。

### アロン神権の会長会

教会の管理監督であるH・デビッド・バートン監督は、アロン神権の会長として鍵を持っています。そして、大管長会と十二使徒定員会の指示を受けて、その鍵を行使します。

バートン監督は、神権役員評議会の一員として働きます。この評議会には、十二使徒定員会の会員やほかの中央幹部が参加します。ここでは、中央若い男性会長会から出される要請を検討・評価





管理監督会は、アロン神権の会長会として働くとともに、世界中の聖徒たちが永遠の福音の祝福にあずかることができるよう、現世に関する事柄、すなわち実務面における支援を行います。  
 左上——リチャード・C・エッジリー第一副監督、  
 H・デビッド・バートン管理監督、  
 キース・B・マクマリン第二副監督

し、若い男性のプログラムについて勧告や指示を与えます。このようにして、管理監督会は中央若い男性会長会の働きや教会の若い男性の活動プログラムの最新情報を得ることができます。

### 実務面を管理する

管理監督会はさらに、教会の実務面を処理する機関としての働きもあります。実務面の事柄には、什分の一、断食献金、記録、支出、基金の運用といったことが含まれ、さらに、教会の福祉プログラムや人道支援もその中に入ります。管理監督会はまた、教会の建物、会員記録、神殿衣の製造といった分野でも責任を負います。福音を宣べ伝え、教えるために使用する教材の翻訳、印刷、製本、配送なども同様です。この教材の中には、聖典、教科課程の教材、ポスター、DVD、ビデオ、教授支援資料、教会機関誌などが含まれます。こうしたことはすべて、教会の霊的な目的を達成するために行われています。管理監督



会は皆中央幹部であるため、大管長会や十二使徒定員会から求められることは、どんなことでも行うことができます。ですから、今回この質問を受けたときも、そうした指示の下に、ステーキ大会を管理する割り当てを受けていたのです。

多くの人は、管理監督会が責任を負う実務面と聞くと、教会の事務的な事柄を思い浮かべます。しかし、教義と聖約第29章の中で、主はこうおっしゃっています。「まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしにとってはすべてが霊にかかわるものであり、わたしはいまだかつて、現世の律法をあなたがたに与えたことがない。……わたしの戒めは霊にかかわるものだからである。」(34-35節)

主はわたしたちとは異なる方法で物事を御覧になります。教会の実務面も同じです。例えば、モルモン書は印刷された書物ですから、理解しようとしていない人にとっては、ほかの本と何ら変わるところはありません。しかし、この本は世界に向けて、イエス・キリストの永遠の福音を伝えるために出版された本です。ですから、モルモン書の翻訳、印刷、製本、配送を扱う「実務面」には、実に霊的な意味合いが含まれていることになります。この原則は、教会の行うあらゆる「実務」に当てはまります。

きわめて現実的な意味で言えば、管理監督会の目標は、天の御父の子供たちが永遠の福音の祝福を受けるために、必要なことをすべて行う手助けをするということです。そのためにわたしたちは、現世の事柄、すなわち実務面での支援を行います。

教義と聖約第78章にはすばらしい聖句があり、その中で主は御自分の倉について語っておられます。広い意味で言えば、この倉という言葉は、神の王国を打ち立てるために教会員が提供する時間や人力、財源をします。この聖句から、地上の事柄と天の事柄との調和について学びます。

「……わたしの民の中の貧しい者のために倉の諸事を整え確立するに当たって、わたしの民の組織があることが必要である。」

人の救いと、天におられるあなたがたの父の栄光のために、あなたがたが支持してきた大義を推し進める目的をもって、わたしの教会の不変かつ永遠の組織と制度としてそれが必要である。」(3-4節)

管理監督会の一員という立場から、神権の権能および啓示と預言の霊が、主の業の実務面においても、欠かすことのできないものとして機能していることを知るようになりました。■



# 台風と試練

パーシバル・トミー

**わ**たしの家族は、弟と母とわたしの3人だけです。弟とわたしは伝道に出るために備える決意をしました。母には援助するお金がなかったので、わたしたちは自分でためる必要がありました。

けれども、たくさんの試練に直面しました。ある日、地元を通過した台風でヤシの大木が倒れ、小さな我が家は壊れてしまいました。弟とわたしは伝道のためにためた資金を家の建て直しのためにに使いました。また一から貯金し始めなければなりませんでした。

数か月後に、わたしはマラリアにかかりました。病院に行く必要があったので、また伝道資金を使わな

ければなりませんでした。

伝道資金を蓄えられずに落胆していたわたしは、試練を克服できるように神に祈り、断食しました。すると天の御父は助けてくださり、必要な資金を得ることができました。

大好きな聖句の一つは、とても簡潔です。「まず神の王国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。」(3ニーファイ 13:33) この聖句は非常に励みになります。わたしは信仰と、伝道に行きたいという望みによって、人生の試練や問題を乗り越えました。

弟とわたしは、現在二人とも宣教師として奉仕しています。御心みこころを行うときに、神がその子供たちを助けてくださることを知っています。■

パーシバル・トミーは、フィリピン・ブエルトプリンセサ地方部、ロクサス支部の会員です。



## 恥としない

ルイス・ウバルド・パディーラ・オルティス

**あ**る日、学校の授業で宗教が採り上げられました。わたしは先生から、この教会に関する一つの記事を読むように言われました。それには間違った内容が記されていました。そのとき、次の聖句を思い出しました。「わたしは〔キリストの〕福音を恥としない。」(ローマ1:16) 先生はまた読むように言いました。わたしは、その記事にはたくさんの偽りが記されているので読まないと答えました。そして、その機会をとらえて、自分が実際に信じていることを説明し、教えました。

この困難な場面を切り抜けると、温かい平安を心に感じました。あの聖句のおかげで、世にあって自分の信条を擁護することを学びました。■

ルイス・ウバルド・パディーラ・オルティスは、ベネズエラ、ファルコン地方部コロ第2支部の会員です。

マレーシアの10代の若者たちは、国内で教会が発展するにつれ、数多くの「1番」を経験しています。上から右回りに、ガー・ウェイ・シエン、ティアン・ミン、ラウ・カー・イー・アミー、ゴー・ウェイ・セン、トレン・P・パーソンズ、アリアナ・ダビエル、スティーブン・C・パーソンズ支部長とベナン支部の10代の若者たち。





# マレーシアの 若い開拓者たち

ヘンリー・コール, ジェニール・コール

「1番になる」という意味は、人によって様々です。競走相手よりもほんの少しゴールのテープを早く切る、家族で最初の子供として生まれる、最初に伝道に出る、最初に学校を卒業するなどです。

ここ数年、マレーシアの末日聖徒の青少年の生活には、違った面で1番になることが多々あります。福音に関して1番になることです。マレーシア・イポー地方部は2003年に組織されました。以来、青少年は最初のユースカンファレンスを計画して参加し、地方部

で最初のセミナーの卒業式に出席しました。この地方部には支部が3つしかありませんが、青少年は教会の発展のために、人に<sup>あかし</sup>証を伝える決心をしています。そして、いつの日か、西マレーシア最初のワードの一員になりたいと願っています。

「何もかも1番というわけにはいかないですよ。」そう語るのは、1998年に教会に入ったマルビンダー・シンハ(16歳)です。「でも、わたしたちはこの開拓者ですから。」

この開拓者たちは  
まだ10代です。  
でも、祖国で  
新しい生き方を  
築こうとしています。

## マレーシア

東南アジア諸国の一つであるマレーシアは、国土のほぼ全域がうっそうとした緑のジャングルに覆われています。マレーシア・イポー地方部は、国の西側にあり、マレー半島のタイのすぐ南にあります。東西マレーシアは、海を隔てて約640キロ離れています。2004年12月に津波が広域にわたって発生しましたが、マレーシアは、スマトラ島の陰になっていたおかげで、その被害から奇跡的に逃れることができました。

マレーシアには、60か国以上の国籍を持つ人々が住んでいます。青少年の大半は、マレー語、中国語、英語など、少なくとも3か国語を話します。中には4か国語、5か国語を話す青少年もいます。



### ユースカンファレンスで互いに強め合う

昨年のユースカンファレンスでは、楽しく騒ぐ声が響き渡りました。10代の青少年にとって初めての経験がもう一つあったからです。野球です。カンファレンスに参加した青少年の中で以前に野球をしたことがあるのは、ほんの2、3人だけでした。そこで、彼らにはゲームのルールを説明する割り当てが与えられました。

「野球のやり方を学ぶのは、まったく初めての経験でした。いつもはサッカーとバドミントンばかりしているから。」マルビンダーはそう言います。

野球のほかにも、ユースカンファレンスではいろいろな楽しいゲームや活動がありました。そうした活動も十分に楽しんだのですが、いちばん忘れられない経験は、同じ信仰を持つ仲間と会い、自分たちが少数派ではないことを知り、勇気を得たことだと言います。

マイアメイドのアリアナ・ダビエルはこう言います。「こんなにたくさんのマレーシア人の青少年と会えるなんて、すばらしい経験でした。同じような試練や誘惑に遭いながらも、ちゃんと信仰を守っているんです。地球上のどこへ行くとも福音は同じだということが分かりました。」

### セミナーの卒業生から学ぶ

最近、青少年はもう一つ、福音に関して初めての経験をしました。地方部で最初のセミナー卒業式に出席したのです。マレーシアの3人の青少年、ケルビン・アナンド・クマル、アウン・ラック・タン・アーネスト、ハミシュ・ステイブン・パーソンズがセミナーの卒業証書を受け取りました。

1999年にバプテスマを受けたケルビンは、教会員になってから最初の4年間、セミナーに出席しました。セミナーで知識が身に付いたおかげで、証も深まったとケルビンは言います。「セミナーを卒業できてほんとうにうれしいです。セミナーは、正しい決断を下し、教育を受ける計画を立てるうえで助けになりました。セミナーでいろいろと学べたので、いつ

か必ず神殿で結婚します。」

青少年は、ケルビンたち卒業生の模範に励まされて、セミナーに熱心に参加していると言います。セミナーに参加することは、マレーシアの10代の若者にとって簡単なことではありません。学校の勉強や宿題で、ほとんど自由時間がないからです。1週間に6日学校に行き、ほとんどの生徒は、放課後、家庭教師に付いて遅くまで勉強します。

ジャスリンダー・カウアは、イポー第2支部のマイアメイドです。彼女はセミナーに参加しようと思ったことについて、ほとんどの友人に理解してもらえないと言います。「朝早く教会に行き、天のお父様や御子について勉強していると友達に言ったら、『正気とは思えないわ。きっと成績も落ちるわよ』と言われました。でも、セミナーに参加しているおかげで、学校の成績も良くなりました。天のお父様のため



に自分の時間を犠牲にしているからです。学校へ行くころには、頭もすっきり覚めていて、勉強にもずっとよく集中できるんです。」

マルビンダー・シンハも、セミナーに参加したおかげで、学校で良い成績を残してきたと言います。マレーシアの生徒は、在学中に2度、厳しい試験を受けなくてはなりません。この試験の結果で、どの大学に進学し、どのような職業に就けるのかが決まります。マルビンダーにとって今年はその試験のための大切な年でしたが、それでも、セミナーに行くことを選びま



**左——エスム・タン, ラウ・カー・イー・アミー,  
ユン・キー・チン, 集会所の外で。  
上——イポー第2支部の青少年と西マレーシア,  
イポーのにぎわう通り  
挿入——クリスティー・ヘレン**

した。彼は、そういう決断をしたことで天の御父が祝福してくださり、試験で良い点を取れるように助けてくださることを知っていると言います。「セミナーに出席して、信仰がいちばん大切だということを学びました。」

### 開拓者のように

宣教師が西マレーシアに続けて派遣されるようになったのは、まだ1980年のことです。そのために、教会員の数はまだそれほど多くはありません。実際、教会員は人口12,015人に1人、つまり、全人口の0.1パーセントしかいません。初期の開拓者と同様、マレーシアの若い男女は、同年代の仲間の多くがまだ福音を聞く機会を得ていないことがよく分かっています。そして友人に証を伝えることで、教会の発展を助けることができると確信しています。

また、福音を伝える備えができるようになるには、懸命に努

力して証を強めなければならないことも理解しています。アウン・ラック・タン・アーネストは、まだ幼いころに両親から福音について教えられました。でも、福音が真実かどうか、自分自身で答えを出さなくてはならないともずっと思ってきました。

「バプテスマを受けたとき、イエス・キリストについてもっと知りたいと思いました。」17歳のアーネストはこう言います。「聖餐会<sup>せいさん</sup>で初めて証をしたとき、イエス・キリストが神の御子であられるとはっきり分かりました。生涯でいちばん幸福な瞬間でした。そして、今でも最善を尽くして信仰を深め、キリストの証を強めようと努力しています。」

アーネストたちイポー地方部の青少年は、証は伝えることで強まるということをよく理解しています。イポー第2支部には、若い男性と若い女性がそれぞれ10人ほどいます。証会ではできるだけ証を述べるようにしています。若い女性会長のリウ・シウ・リン・クリスはこう述べています。「あの子たちの証を聞くことは、わたしにとって最大の祝福です。」

西マレーシアの青少年は、福音に関して多くの点で1番になる祝福を受けています。ユースカンファレンスやセミナーといった経験を通じて、福音を信じているのは自分たちだけではないということが分かりました。そして今は、揺るぎない証を深め、マレーシアの国中に福音の良いおとずれを伝えようと決意しています。■

ヘンリー・コールとジュニール・コールは、ネバダ州ラスベガス・レークスステーク、スパニッシュヒルズワードの会員です。二人は、シンガポール伝道部で伝道しました。

## 神殿に行けるでしょうか

マリナ・ティモフィーバ

**わ**たしは1993年12月5日、ミンスク市でバプテスマを受けました。当時ベラルーシ国内には、唯一ミンスク市にしか末日聖徒イエス・キリスト教会の支部がありませんでした。礼拝行事に出席するためにミンスクまで通いましたが、わたしの住むポリソフからは70キロも離れていて、家族は、17歳のわたしが教会に行くことに強く反対していました。でもその試練のおかげで真理に対する信仰<sup>あかし</sup>と証が強められました。また幸せなことに、ドイツのフライベルク神殿に2度参入し、死者のためのバプテスマを受けることができました。いつの日かエンダウメントを受けることを待ち遠しく思っていました。

1996年、将来夫となる男性、イゴールと交際を始めました。

イゴールは福音が回復されたことを喜んで受け入れ、1997年2月23日にバプテスマを受けました。わたしたちはその年の3月1日に結婚しました。神殿の業に対する強い証を持っていたわたしは何をおいても早く神殿に行きたいと望んでいました。

1997年の9月、イゴールが大学に入学するために、わたしたちはロシアのサンクトペテルブルクに引っ越しました。その地で娘のネリーが誕生しま

**神**殿で  
結び固められ  
た日は、  
わたしたちにとって  
人生最高の日でした。

した。イゴールが会員になって1年が過ぎ、結婚生活も1年が過ぎました。でも、まだ神殿には参入していませんでした。ビザが取得できず、出国書類がそろわなかったのです。

ネリーが6か月になったとき、2番目の子供を身ごもっていることが分かりました。しかし目の前は真っ暗でした。ビザが取れないイゴールは定職に就くことができず、3つのアルバイトを掛けもちしていましたが、生活していけるだけの収入が得られませんでした。時々イゴールの両親から生活費や食料品が届きましたが、家計が苦しくて絶望的な気持ちになることがよくありました。まだ神殿に行っていなかったことで、さらに暗い気持ちになりました。1998年8月、為替相場が高騰した時点で、ベラルーシに帰国することを決意しました。

1999年1月6日、次女のイリエナがミンスクで誕生しました。イゴールは定



職に就いていましたが、当時はまだ神殿に行けるだけのお金はありませんでした。それでも少しずつ貯金して、2000年の8月末に、ようやく家族そろってドイツの神殿に行くことができました。カイザースラウテルンにはイゴー

ルの親戚<sup>しんせき</sup>が住んでいて、そこに泊めてもらうことができました。

9月2日早朝、フランクフルト神殿に向けて出発しました。乗り換えが2度あり、疲れる旅でしたが、心は喜びに満ちていました。神殿長をはじめ、神殿で奉仕している皆さんにほんとうにお世話になりました。また、エンダウメントを受けている間、娘たちの面倒を見てくださった姉妹たちにも感謝しています。忘れられない一日になりました。その日の感動は、とても言葉では表現できません。皆さん、とても親切でした。

エンダウメントの後、家族で結び固めの部屋に入りました。イリエナはお昼寝の時間と重なってしまい、部屋に入る前からぐずっていました。結び固めの儀式的言葉はイリエナの泣き声にかき消されてほとんど聞き取れませんでした。それでもとても幸せでした。主の宮に入れたこの旅行は、生涯の宝となりました。

その後、何とかもう一度神殿に行くことができました。2001年2月、ミンスクの数名の会員がフライベルク神殿に行く計画を立てたのです。わたしは家族と結び固められたときに儀式的言葉がほとんど聞き取れなかったため、いつか死者の身代わりとして結び固めの儀式を受けたいと思っていました。ですから、一緒に神殿に行こうと誘われたときには、イゴールとともに喜びました。

その後、息子が生まれ、ロベルトと名付けました。今、家族でミンスク第2支部に集っています。(ベラルーシでは、「末日聖徒イエス・キリスト教会ミンスク第2宗教コミュニティー」と呼ばれています。) 困難を乗り越える度に新たな困難に直面してきましたが、すべての試練に心から感謝しています。たとえどんな試練に遭っても、天の御父はすべてがわたしたちの益となるようにと望んで

おられます。最も大変なときには、主以外から助けを得ることはできません。困難に陥ったからと主に背を向ける人は、川に落ちたからと、腹いせに救命胴衣を捨ててしまうようなものです。

主とともに歩むなら、くびきは負いやしく、荷は軽くなります。主は耐えられない試練をお与えになることはありません。■

マリナ・ティモフィーバはロシア、モスクワ南伝道部、ミンスク第2支部の会員です。

## 食べ物 底を突いていました

アダム・N・アーキン

**わ**たしはカナダ・ウイニペグ伝道部で伝道しました。当時わたしと同僚はサスカチュワン州プリンスアルバートという美しい町で働いていました。わたしはハワイ州ライエ出身で、ハワイ・ライエ神殿の近くで成長しました。同僚のラーモア長老は北アイルランドのベルファスト出身でした。二人とも家族と出身ワードから経済的な支援を受けていましたが、毎月決まって届くはずの宣教師基金は時々届くのが遅れていました。そんなある月に特別な経験をしたのです。

その月の初め、わたしは自分あての小切手を受け取りました。ラーモア長老の小切手も伝道本部から転送されて来るはずでしたが、なかなか届きませんでした。やがて家賃を支払う日になりました。食料も徐々に底を突いてきました。わたしの小切手だけでは家賃と食費の両方を賄うことはできません。わたしたちは家賃を払う方を選びました。

さらに数日待ちましたが、ラーモア長老への小切手は届きませんでした。買い置きしておいた食料はほとんどなくなり、唯一残っていたのは、袋に半分のミックスベジタブルと、冷凍庫の中で長い間霜をかぶっていたスープ用のだし骨だけでした。(このだし骨は冷凍庫にくっついていたので、取り出すのに一苦労しました。)それで野菜スープを作りました。大した量ではありませんでしたが、食べ物があることに感謝しました。

翌日、近くで戸別訪問をしました。通りは永遠に続くように感じました。耳を傾けてくれる人もいません。空腹で胃が痛み始め、二人とも今にも倒れそうになりました。通りの外れまで来たので、少し休憩することにしました。そばにあった公園のベンチに腰

かけ、力を取り戻そうとしていると、同僚が嘆願するように言いました。「おなかがすいた。」ベンチに腰かけたまま、ラーモア長老の身になって考えてみました。ラーモア長老は小柄で、わたしの半分くらいの体格です。わたしはまだしばらくは耐えられそうでしたが、ラーモア長老は何か食べなければもう限界なのかもしれません。

先輩として、この苦境を乗り越えられるよう心の中で天の御父に願い求めました。公園の向こうに目を転じると、家が5軒くらい並んでいます。それは今まで戸別訪問をしていた通りに続いていました。わたしは同僚に言いました。「もう少し頑張って、この通りの最後まで訪問しましょう。」同僚はわたしに顔を向け

て言いました。「もう帰りましょう。」しばらく話し合った末、残りの5軒を訪問してだれも関心を示さなければアパートに帰るということにしました。

1軒目の家の前を通ると、夫婦が車庫の前で忙しそうに車の修理をしていました。「御覧のとおり、今日は忙しいから」と断られ、次の家に行きました。玄関に近づくと、おいしそうなおいが漂ってきました。突然ドアが大きく開き、中年の女性が笑顔であいさつをしてくれました。「さあ、中へ。おなかがすいているといいんだけど。」

わたしたちはためらいながら中に入りました。何が起ころうとしているのか分かりませんでした。女性が通してくれたダイニングルームには、すでにテーブルに二人分の食器が用意され

**公** 園のベンチに腰かけ、力を取り戻そうとしていると、同僚が嘆願するように言いました。「おなかがすいた。」



## 主の愛の象徴

フレディー・W・カレーニョ

ウ ルグアイのモンテビデオには教会の建物が幾つかあります。その一つ、神殿の建設現場から10分ほど離れた建物から出ようとしたとき、妻から電話がかかってきました。間もなく神殿の尖塔に天使モロナイ像が据え付けられるので、すぐに迎えに来て、自分と息子を連れて行ってほしいと言うのです。妻の声から、モロナイ像が据え付けられる瞬間をどうしても自分の目で見たいという思いが伝わってきましたが、わたしの気持ちは複雑でした。時間はぎりぎりでしたし、家は反対側の町外れにあります。いったんそこまで戻って引き返さなければなりません。

家族を乗せて神殿に向かう途中、胸が高鳴り、まるで1分が1時間のよう感じられました。渋滞からなかなか抜けられませんでした。主の助けのおかげで、何とか到着できました。

この数日、空は灰色の雲に覆われ、雨が降り、強風が吹いていました。しかしその日は午後になって、空は青く穏やかに晴れました。頭上に降り注ぐ日の光は、天の恵みのようでした。

到着すると、ウルグアイの教会の歴史に残る重要な出来事を見ようと集まった会員が数人いました。その中に、

妻の母をはじめ、ウルグアイにおける教会の開拓者も数人いました。目には涙が浮かんでいました。長い間待っていた神殿の建設を目にするという祝福をかみしめていたのです。

天使モロナイ像が放つ光は、福音を広めてきた多くの人たちの犠牲を象徴していました。まるで空を飛んで来たモロナイが、栄えある場所に舞い降りたかのように見えました。神殿の尖塔に立つモロナイ像は、永遠の福音が回復されたことと、発展するために主の助けを必要としていた国にそのための扉が開かれたことを世界に宣言しています。

皆、この垂直に立つ荘厳な像が予定どおりの場所に設置される様子を見ながら、永遠の御父の愛に思いを寄せていました。御父は間もなくこの国で、わたしたちが愛のうちに結び固められることを可能にしてください。わたしたちは、子供や孫が神殿に行き、神聖な聖約を交わし、この国を祝福する存在となるように願っています。

来る2001年3月に行われる神殿の奉獻式の前後に向けて、しなければいけないことが数多くあることを理解していました。さらにその後やって来る時代にも備えなくてはなりません。何にも増して、先祖を思い起



こす必要がありました。なぜなら、この聖なる宮で彼らも祝福を受けたいと思っているはずだからです。しかしわたしたちは、あの美しい9月の日を決して忘れはしません。天の御父の愛の象徴が置かれるのを直接見て、わたしたちの胸は感謝で満たされました。■

フレディー・W・カレーニョはウルグアイ、モンテビデオ東ステーク、ブセオワードの会員です。

ていました。テーブルに着くと、女性はてきぱきと給仕をしてくれました。王様にでも用意されたようなごちそうに、胸が熱くなりました。もしかすると、彼女はわたしたちをだれかと間違えているのかもしれない、やがてそれに

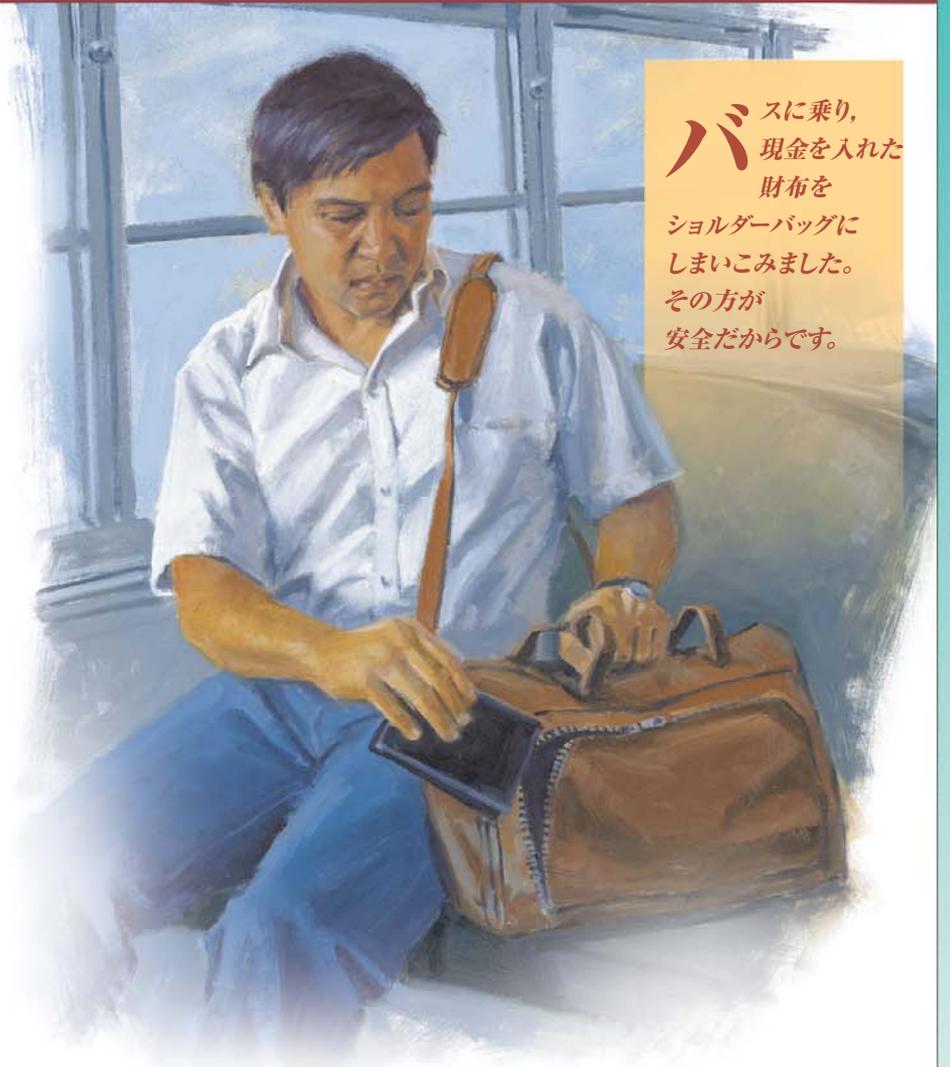
気づいて、追い出されるかもしれないと思いました。

彼女はテーブル中にポークソテー、マッシュポテト、グレービーソース、などを所狭しと並べて言いました。「分からないのよ、どうしてこんなに

作っちゃったのか。でも作るようにだれかに言われた気がしたの。お客さんが来るわけでもないし、一人暮らしだし。でもあなたたちが通るかかってよかったわ。まだ食べてないでしょう。」

わたしは答えました。「まだですが、

バスに乗り、  
現金を入れた  
財布を  
ショルダーバッグに  
しまいこみました。  
その方が  
安全だからです。



わたしたちを御存じなのですか。」

彼女は答えました。「あら、モルモンの宣教師じゃないの？ どうぞ。お祈りしてから、食べるでしょ。」

わたしたちはもちろん食事の祈りをささげ、主が与えてくださった豊かな恵みに感謝を述べました。今でも、あるとき以上にすばらしい食事を思い出すことはできません。あれは必要なときに主が与えてくださった食事なのです。

主が言われたように「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民〔に〕父と子と聖霊との名によって……バプテスマを施し、……教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ 28:19-20) ■

アダム・N・アーキンはネバダ州ラスベガス・パラダイスステーク、ピラボニタワードの会員です。

## 財布がない!

エクトール・カステリャノス・トルシオス

わたしは<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を納めることでたくさんの祝福を受けられました。そして、わたしたちがささげる什分の一の価値は、金額の多少にかかわらず、主の目から見ると等しいということが分かるようになりました。

ある日のことです。給料として受け取った小切手を現金に換え、家に向かっていました。帰ったら今月分の支払いをいろいろと済ませ、初めての子供がおなかにいる妻の代わりに家事をしようと思っていました。バスに乗り、現金を入れた財布をショルダーバッグの小物入れにしまいこみました。そのほうが安全だったからです。しかし、家に帰って財布を出そうとすると、どこに

も見当たりません。とても驚き、ほんとうに不安になりました。2週間分の給料が全部入った財布が出てこなかったら、大変なことになります。

懸命に捜しましたが、見つかりません。帰宅するときに乗ったバスに戻って捜してみました。しかしバスの中にも財布はありませんでした。

落胆して家に戻り、部屋に入って、ひざまずきました。涙ぐみながら、一生懸命に神に祈り、助けを求めました。これまで什分の一を完全に納めてきたこと、今祝福が必要であることを神に伝えました。主に祈ったことがいつでも望みどおりにかなえられるわけではないことを承知していましたが、その日、主はすばらしい方法でわたしを祝福してくださったのです。

その夜監督がやって来て、社会保障

カードを持っているかと尋ねました。わたしは、今日財布をなくしたのでカードも一緒になくなってしまったと答えました。すると監督は財布を取り出し、わたしのものではないかと尋ねました。それはわたしの財布で、お金も全額そのまま入っていました。監督は、教会員ではない友人が、その財布を家の外で見つけ、神殿推薦状が入っていたので、持って来てくれたと説明しました。そして、これは什分の一を忠実に納めていたからこそ起きた奇跡にほかならないと言いました。■

エクトール・カステリャノス・トルシオスはグアテマラ、アマテランステーク、アマテランワードの会員です。

# 御存じでしたか？

## それは7月の出来事でした。

1775年7月8日——ジョセフ・スミスの母親、ルーシー・マック・スミスが、ニューハンブシャー州ギルサムに生まれました。

1804年7月10日——ジョセフ・スミスの妻であり扶助協会の初代会長であったエマ・



ヘイル・スミスが、ペンシルベニア州ハーモニーに生まれました。

1912年7月8日——末日聖徒初のオリンピックメダリスト、アルマ・リチャーズが、走り高跳びで金メダルを受賞しました。

1920年7月31日——ジェームズ・E・ファウスト第二副管長がユタ州デルタで生まれました。

## 指導者へのヒント

定例会やクラスで行う責任だけに気を配るのではなく、あなたが仕えている人々のことを心に留めましょう。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は言いました。「救い主の指導にはまったく私心がありませんでした。」

御自分と御自分の必要とは二の次にし、責任として求められる以上のことをし、精力的に、また愛をもって効果的に教え導かれたのです。非常に多くの人が自分の望みをかなえるために、自らの人生に対してもほかの人々に対しても過大な要求をしています。現代の世の中の問題は、ほとんどそういった利己心と自己本位な物の考え方に根ざしています。これはナザレのイエスが、指導者として完全な模範を示しながら実践された原則と真っ向から対立しています。」「(イエス:完全な指導者)」「聖徒の道」1983年8月号, 8参照)

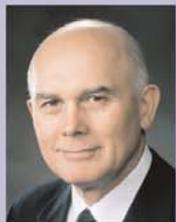


## オーストラリアから日本へ

昨年夏、釧路で開かれた「第1回世界子供サミット」に、オーストラリアのポートステューブズを代表して、オーストラリア・ニューカッスルステーク、メートランドワードに所属する、アンモン・アービッドソンとブルック・ノーブルが参加しました。テーマは「自然環境とわたしたちの未来」でした。

12歳のアンモンは、サミットで行った発表についてこう言いました。「わたしたちが喜ぶようにと主が造ってくださった美しい世界のことが、もっとよく分かりました。」さらにアンモンは、主が造られたすべての人、言語、文化について考えながら言いました。「どこかは分かりませんが、天の御父がわたしを送ってくださる場所で、伝道することが楽しみになってきました。」

15歳のブルックは、家からとても遠く離れたことも、福音に対する証を強めるのに役立つと言っています。「今回の経験で、どこへ行っても、自分には福音があることが分かりました。ひざまずき、天の御父に祈れることがとても慰めになりました。」



## 開拓者を敬みましょう

「古今の開拓者は、高潔、仲間意識、忍耐、協力、一致、無私<sup>こんにち</sup>の心、犠牲、従順などの原則に導かれましたが、それは今日でも欠かせません。開拓者をたたえるためには、彼らの行動の指針となった永遠の原則に敬意を払い、実践しなければなりません。ヒンクレー大管長が……話したように、『真理の大義の中でよく奉仕することにより、先人たちを最高にたたえることができます。』

真理の大義は主であり救い主であるイエス・キリストの大義です。開拓者は主の僕<sup>しもべ</sup>でした。わたしたちもそうなるよう努力しなければなりません。わたしはそのことを証します。先祖が大切にしていた信仰に忠実であることができますように。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス  
「開拓者に倣う」『聖徒の道』1998年1月号, 85参照



### 伝道の備え

『リアホナ』に感謝しています。『リアホナ』は、家族を霊的に強め、家庭の夕べを開くときに役立ってきただけでなく、わたしが監督としての責任を果たすうえでも指針となってきました。

監督会では、伝道に出ようと準備しているワードの若い会員をどのように助けたらよいのかと案じていました。うれしいことに、2004年3月号の『リアホナ』に、「最高の宣教師になる」と「祝福師の祝福」というすばらしい記事が掲載されていました。これから宣教師になろうとしている会員が伝道の備えをするのに役立つことでしょう。

責任を果たすうえで、この靈感を受けた機関誌が指針となってくれることを非常に感謝しています。

ブラジル・ディアデマステーク  
バルケ・ドロティアワード  
アマリルド・マーティンス

### 天の御父はわたしたちを愛しておられます

『リアホナ』2003年10月号に掲載されていた、中央若い女性会長のスーザン・W・タナー姉妹の教えに感動しました。幸せなときも悲しみのときも、天の御父が愛してくださっていると理解することは、霊的な成長を助けてくれます。よく難しい状況を避けられるように祈りますが、そうならないときに、「天のお父様はわたしのことを愛してくださっているのだろうか。祈りを聞いてくださっているのだろうか」と思います。このような問いかけをするとき、

<sup>みたま</sup>御霊は常に、天の御父がわたしのことを愛し、信仰の祈りをお忘れにならないという新たな確信を下されます。御父の時はわたしの時とは違いますが、常に正しいのです。

コンゴ共和国キンシャサ・  
ヌガリエマステーク、ビンザワード  
クリスピン・ミタゴ・クバラ

### 心を悩ませない

わたしは将来のことを心配していました。そのようなときに、2004年8月号の『リアホナ』に掲載されていた、十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老の「祈りを改善する」という記事を読みました。そのとき分かったのは、ワースリン長老が話しているように、心を悩ませないこと、すなわち、自分でコントロールできないことについて心配しないということです。生活の中に不幸を生み出さないようにするためです。

フィリピン・バコロド北ステーク  
バタワード  
ベレ・C・ダクダグ

### 『リアホナ』は証を強めてくれます

『リアホナ』にいつも感謝しています。毎月この機関誌を読むことにより、福音とのつながりを強める機会が得られます。また教会やモルモン書、イエス・キリストに対する証を増し加えてくれます。掲載されている記事、ニュース、絵、写真、話、そして子供たちを対象にした活動さえ、何年も前に得た証を新たにしてくれます。

スペイン・グラナダステーク  
マラガ第3ワード  
カンソルラ家族

## 記事をお寄せください

食料貯蔵に関する記事、経験、提案、成功談を募集しています。

1年分の食料を貯蔵するという

勧告をどのように

応用してきましたか。

この勧告に従うことによって、どのように生活が祝福されましたか。

下記までお送りください。

あて先——

Food Storage,

Liahona, Room 2420,

50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220,

USA

電子メール——

[cur-liahona-imag@ldschurch.org](mailto:cur-liahona-imag@ldschurch.org)

住所、氏名、

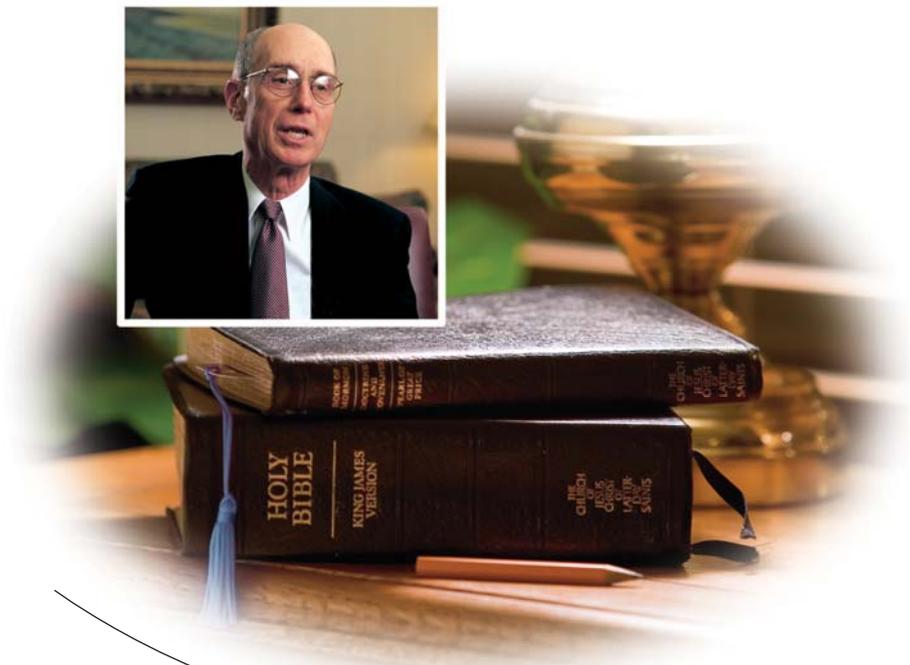
所属ステーク／ワード(地方部／支部)

を明記してください。

締め切りは2005年9月15日です。



写真/デジタルストック社、フォトディスク社



「あるときは教義を知るために  
聖文を読みます。  
または、導きを得るために  
聖文を読むときもあります。  
……そうすると、今までになかった、  
新しい発想や考えが浮かんできて、  
靈感と導きと、質問に対する答えを受けるのです。」  
「聖文研究について語る——  
ヘンリー・B・アイリング長老へのインタビュー」  
8ページ参照